

高槻市文化財年報

平成19・20年度

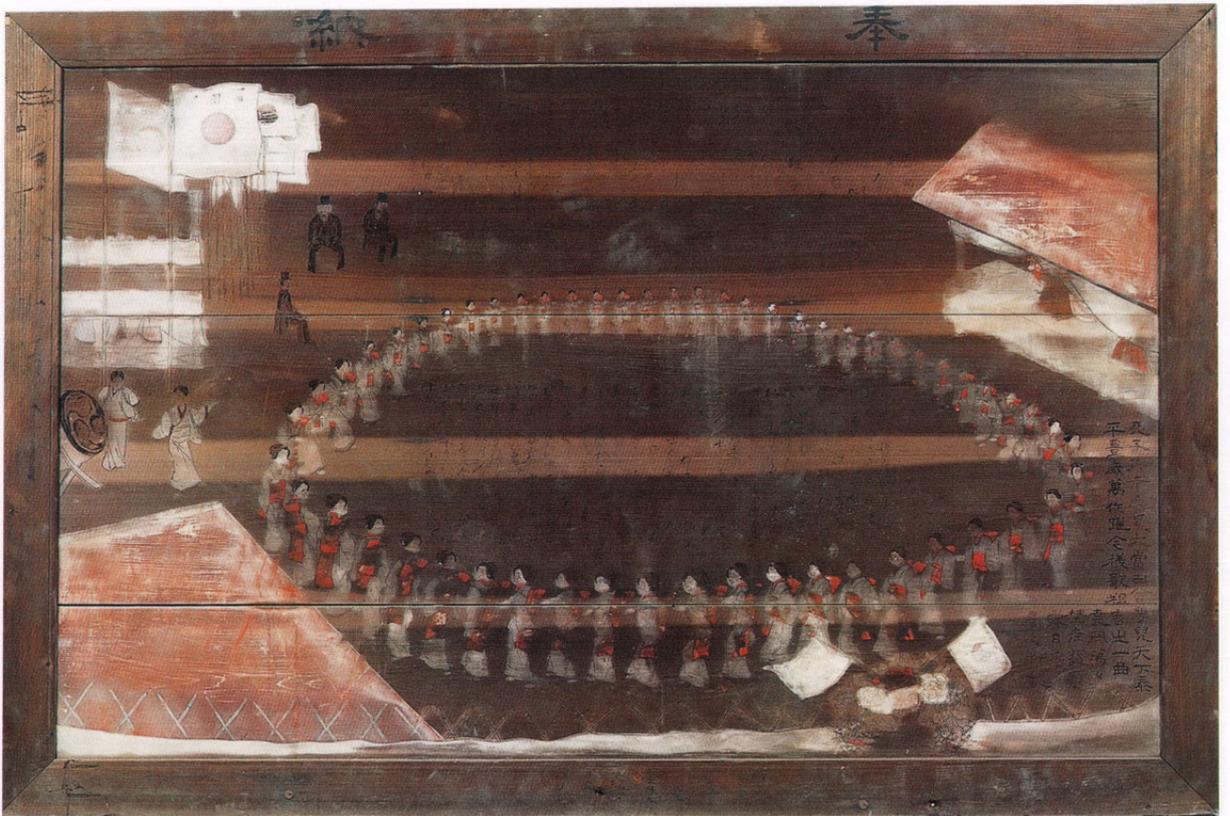
高槻市教育委員会

高槻市文化財年報

平成19・20年度



「寅」絵馬（本山寺蔵）



富田踊り絵馬（三輪神社蔵）

1 平成19年度

I 文化財の調査及び研究

1. 文化財の調査

□文化財の掘り起こし調査

しろあと歴史館の展示資料の充実及び本市の歴史・文化の発掘のため、文化財の掘り起こし調査を30件実施し、資料化を図った。(本書1-Ⅱ-9 参照)

□特別展開催に伴う事前調査

秋季特別展「三好長慶の時代－「織田信長芥川入城」の以前以後－」の開催にあたり、三好長慶画像の諸本、関連する古文書の調査を行い、展示の充実と研究の進展に努めた。

調査先：京都市立芸術大学芸術資料館、京都大学総合博物館、泉涌寺、京都国立博物館、南宗禅寺、妙国寺、離宮八幡宮など

□古文書の整理

高槻市史編纂時から所蔵する古文書及び特別展開催に際して収集した古文書について、目録作成、写真撮影・データ入力に努めた。

□市内絵馬の調査

市内に点在する神社・寺院の9ヵ所の絵馬所蔵調査を行い、20点について記録保存することができた。(詳細は、本書3-Ⅱ 参照)

□収蔵武具甲冑の調査

野見神社より寄託中の永井神社伝来永井直清所用刀剣・甲冑、及びしろあと歴史館所蔵川口コレクションのうち、徳島藩主蜂須賀家伝来品とされる甲冑・薙刀・弓具等について、専門家の指導を得て調査を実施した。

実施日：10月28日

調査指導：須藤茂樹氏

(徳島市立徳島城博物館主任学芸員)



□野見神社旧社家所蔵の美術工芸品調査

高槻城三の丸跡に建つ野見神社(野見町)の旧社家に所蔵される掛け軸・古文書等の資料について写真撮影及び記録作成をおこなった。

実施日：平成20年2月5日

調査指導：吉村 亨氏(京都学園大学教授)

No.	遺跡名	所在地	届出者	用途	面積(m ²)	種別
1	嶋上郡衙跡(2007-A)	郡家新町342-1	大仲開発	資材置き場	1,745.69	調査
2	史跡嶋上郡衙跡(2007-B)	清福寺町914	KDDI(株)	携帯基地局	—	調査
3	史跡嶋上郡衙跡(2007-C)	川西町974-1	高槻市教育委員会	遊具改修	—	調査
4	史跡嶋上郡衙跡(2007-D)	清福寺町906-1他	高槻市教育委員会	仮整備	2,800	調査
5	史跡嶋上郡衙跡(2007-1)	郡家新町270他先	郡家本町実行組合	水路補修	L=60m	調査
6	史跡嶋上郡衙跡(2007-E)	清福寺町990-3他	高槻市	道路舗装	180	調査
7	嶋上郡衙跡(2007-F)	郡家新町163-7	個人	個人住宅	62.06	立会
8	郡家本町遺跡(2007-A)	郡家本町921-2・3	個人	個人住宅	188.14	立会
9	郡家本町遺跡(2007-B)	郡家本町727-10他	個人	個人住宅	—	立会
10	郡家本町遺跡(2007-C)	郡家本町1629-2他	西原工務店	分譲住宅	77.22	立会
11	郡家本町遺跡(2007-D)	郡家本町1629-3他	西原工務店	分譲住宅	77.13	立会
12	郡家本町遺跡(2007-1)	郡家本町1606-1	個人	個人住宅	97.55	調査
13	郡家本町遺跡(2007-2)	郡家本町1563-3	個人	個人住宅	264.9	立会
14	郡家本町遺跡(2007-E)	郡家本町1626-5	個人	個人住宅	193.89	立会
15	史跡鬮鷄山古墳(2007-1)	水室町六丁目1-3他	高槻市教育委員会	確認調査	467	調査
16	土室遺跡(2007-A)	上土室六丁目1-10-1	高槻市	下水	243	調査
17	土室遺跡(2007-B)	上土室六丁目1	高槻市	資材置き場	500	調査
18	史跡今城塚古墳(2007-A)	郡家新町686-1他	高槻市教育委員会	樹木伐採	—	調査
19	史跡今城塚古墳(2007-B)	郡家新町686-1他	高槻市教育委員会	移植根周り掘削	12.7	調査
20	史跡今城塚古墳(2007-C)	郡家新町1-1・2他	高槻市教育委員会	3次整備工事	14,730	調査
21	史跡今城塚古墳(2007-D)	郡家新町702-1・2	高槻市教育委員会	洗車ピット	65.7	調査
22	史跡今城塚古墳(2007-E)	郡家新町664~666他	高槻市教育委員会	4次整備工事	280,410	調査
23	史跡今城塚古墳(2007-F)	郡家新町686-2~5	高槻市教育委員会	事前確認調査	200	調査
24	郡家今城遺跡(2007-A)	今城町118・130-1	野村不動産	分譲住宅	2,280	立会
25	郡家今城遺跡(2007-B)	今城町118・130-1	野村不動産	分譲住宅	1,680	調査
26	郡家今城遺跡(2007-C)	今城町118・130-1	野村不動産	分譲住宅	1,950	立会
27	郡家今城遺跡(2007-D)	今城町118・130-1	野村不動産	分譲住宅	1,560	調査
28	郡家今城遺跡(2007-E)	水室町一丁目779-2	マサトミ住建	分譲住宅	95.97	立会
29	郡家今城遺跡(2007-F)	今城町118・130-1	野村不動産	分譲住宅	2,340	調査
30	郡家今城遺跡(2007-G)	今城町118・130-1	野村不動産	分譲住宅	2,860	立会
31	郡家今城遺跡(2007-H)	今城町118・130-1	野村不動産	分譲住宅	3,250	立会
32	郡家今城遺跡(2007-I)	今城町118・130-1	野村不動産	分譲住宅	3,900	調査
33	宮田遺跡(2007-A)	宮田町三丁目91-1,2	大仲住宅	分譲住宅	913.29	立会
34	津之江南遺跡(2007-A)	津之江北町263-15	個人	個人住宅	90.89	調査
35	津之江南遺跡(2007-B)	津之江北町263-4	ファースト住建	分譲住宅	770.66	立会
36	津之江南遺跡(2007-1)	津之江北町263-18	個人	個人住宅	91.18	立会
37	津之江南遺跡(2007-C)	津之江北町263-16	個人	個人住宅	92.34	立会
38	津之江南遺跡(2007-D)	津之江北町263-17	個人	個人住宅	91.22	立会
39	中城遺跡(2007-1)	昭和台町127	個人	個人住宅	263.99	立会
40	富田遺跡(2007-1)	富田町六丁目61-8	個人	車庫・倉庫	435.4	立会
41	富田遺跡(2007-A)	富田町6-2672	庸委會	事務所	162.62	立会
42	ミクリ遺跡(2007-A)	西町1-7	(財)雇用振興協会	耐震補強工事	11,755.50	立会
43	ミクリ遺跡(2007-1)	西町1041-64	個人	個人住宅	130.66	立会
44	ミクリ遺跡(2007-2)	西町38-11	個人	個人住宅	135.24	立会
45	ミクリ遺跡(2007-B)	西町16他	高槻市	下水道築造	209.97	調査
46	ミクリ遺跡(2007-C)	西町1041-313	個人	個人住宅	146.11	立会
47	ミクリ遺跡(2007-D)	西町1041-30	個人	個人住宅	179.24	立会
48	ミクリ遺跡(2007-E)	西町1041-252の一部	丸勇ハウジング	分譲住宅	84.7	立会
49	ミクリ遺跡(2007-F)	西町1041-61	個人	個人住宅	141.23	立会
50	ミクリ遺跡(2007-G)	西町1041-182	個人	個人住宅	185.03	立会
51	大蔵司遺跡(2007-A)	大蔵司三丁目212-2、212-5	丸勇ハウジング	分譲住宅	107.32	立会
52	高槻城跡(2007-A)	野見町1224-13	個人	個人住宅	69.1	立会
53	高槻城跡(2007-B)	城内町2-13	大阪府教育委員会	エレベーター設置	12	立会
54	高槻城跡(2007-1)	野見町1251-6他	個人	個人住宅	223.76	調査
55	高槻城跡(2007-C)	八幡町一丁目1052-7	個人	個人住宅	166.05	立会
56	高槻城跡(2007-D)	八幡町一丁目1052-7の一部	個人	個人住宅	164.49	立会
57	高槻城跡(2007-E)	野見町1244-3	ダイヤモンド建設	分譲住宅	70.55	立会
58	高槻城跡(2007-F)	城内町1001-16	ゼロ・コーポレーション	分譲住宅	63.69	立会
59	高槻城跡(2007-2)	城内町1495-2	個人	個人住宅	97.66	立会
60	高槻城跡(2007-G)	野見町1251-27	田淵産業(株)	分譲住宅	185.09	立会
61	高槻城跡(2007-H)	野見町6番地内	高槻市	駐車場整備	5,350	立会
62	高槻城跡(2007-I)	八幡町1052-36	個人	個人住宅	101.59	立会
63	高槻城跡(2007-J)	出丸町1224-16	(有)リンクシステム	分譲住宅	100.29	立会
64	悉壇寺跡(2007-A)	成合東の町455他	高槻市	下水仮設道路	1,200	立会
65	悉壇寺跡(2007-B)	成合東の町5	高槻市	下水道築造	177.2	調査
66	史跡安満遺跡(2007-A)	八丁畷町240-6ほか	高槻市教育委員会	フェンス設置	L=149.8m	調査
67	安満遺跡(2007-B)	高垣町34-140	水都住宅販売	分譲住宅	99.04	立会
68	安満遺跡(2007-C)	高垣町249-1	柴田土地	分譲住宅	392.48	調査
69	安満遺跡(2007-D)	八丁畷地内	大阪府水道部	水道管敷設	202.44	立会
70	神内遺跡(2007-A)	神内二丁目93-17	個人	個人住宅	55.44	立会
71	梶原南遺跡(2007-A)	梶原4-8-1	NTTアセットプランニング	店舗建設	884.41	立会
72	梶原南遺跡(2007-B)	梶原4-8-1	フジオフードシステム	看板設置	6.76	立会
73	鶴殿遺跡(2007-A)	鶴殿地先	国土交通省	土砂掘削	10,000	立会

表1 平成19年度調査地一覧

期 間	担当者	調 査 内 容
19.5.9～6.4	早 川	地表下0.8mで礫混じり青灰色粘質土の地山確認。溝・土坑を検出。包含層から縄文土器・須恵器等の細片出土。
19.8.9	橋 本	史跡現状変更 申請どおりに施工
19.11.5	橋 本	史跡現状変更 申請どおりに施工
19.12.7～20.12	鐘ヶ江	史跡現状変更 申請どおりに施工
20.1.7～1.31	橋 本	※史跡現状変更 34-K・L・O・P地区 耕作土・床土を検出。遺構面に達せず。須恵器・瓦・近世陶器の破片出土。
19.12.5	橋 本	史跡現状変更 盛土内の掘削。
20.3.5	橋 本	盛土内の掘削。
19.5.10	西 村	地表下0.6mで灰褐色シルトの地山確認。遺構・遺物無し。
19.5.18	早 川	地表下0.45m 礫混じり黄褐色土の地山確認。遺構・遺物無し。
19.7.17	西 村	地表下約0.3m まで盛土確認。遺構面に達せず。遺構・遺物無し。
19.7.18	西 村	地表下約0.5m まで盛土確認。遺構面に達せず。遺構・遺物無し。
19.9.25～9.26	早 川	※地表下約1mで黄褐色土の地山確認。溝・土坑・柱穴等を検出。柱穴内から土師器細片出土。
19.12.7	橋 本	※地表下約0.2mで砂礫混じり褐色土の地山確認。遺構・遺物無し。
20.1.25	早 川	地表下0.5mで茶褐色土の地山確認。遺構・遺物無し。
19.10.1～20.3.26	高 橋	史跡現状変更 前部東及び南側丘陵斜面と後部北西側裾部の状況を把握。(第6次)
19.5.2～12.28	橋 本	盛土内の掘削。
19.5.2～12.28	橋 本	盛土内の掘削。
19.7.23～10.15	宮 崎	史跡現状変更 申請どおり実施を確認
19.7.23～10.15	宮 崎	史跡現状変更 申請どおり実施を確認
18.8.7～19.9.28	宮 崎	史跡現状変更 申請どおり実施を確認
19.8.3	宮 崎	史跡現状変更 申請どおり実施を確認
19.11.1～20.9.30	宮 崎	史跡現状変更 申請どおり実施を確認
19.11.20～20.3.31	宮 崎	※史跡現状変更 後部部・南北造出・前部部南北両端部についての状況を把握。(1-Ⅱ-4参照)
19.6.11～6.12	早 川	地表下0.3mで盛土確認。遺構面に達せず。
19.6.11～6.14	西 村	地表下1.1mで灰褐色シルトの地山確認。柱穴検出。柱穴内から土師器・須恵器出土。
19.8.1～9	西 村	地表下0.65～1.2mで灰褐色シルトの地山確認。遺構無し。包含層から須恵器出土。
19.8.1～17	早 川	地表下0.9mで青灰色粘質土の地山確認。溝3条検出。褐色砂の埋土から近世瓦・陶磁器出土。
19.9.14	橋 本	盛土内の掘削。
19.9.25～10.5	西 村	地表下1.05mで明灰褐色粘土の地山確認。溝を検出。包含層から土師器・須恵器出土。
19.9.26～10.4	西 村	地表下0.6～1.3mで灰褐色シルトの地山確認。遺構無し。包含層から須恵器出土。
19.10.2～3	西 村	地表下0.8mでにぶい橙色粘土の地山確認。遺構・遺物無し。
19.10.2～3	西 村	地表下0.75～1.2mで灰褐色系粘土の地山確認。遺構・遺物無し。
19.10.18	西 村	地表下0.8mで明灰褐色砂質土の地山確認。遺構・遺物無し。
19.11.27	西 村	地表下0.6m まで盛土確認。遺構面に達せず。遺構・遺物無し。
20.1.23	西 村	地表下0.7mで耕作土確認。遺構面に達せず。遺構・遺物無し。
19.12.26	西 村	※地表下0.7mで耕作土確認。遺構面に達せず。遺構・遺物無し。
20.1.28	西 村	地表下約0.7mで耕作土確認。遺構面に達せず。遺構・遺物無し。
20.2.20	西 村	地表下約0.6mで耕作土確認。遺構面に達せず。遺構・遺物無し。
19.7.20	早 川	※地表下約0.25mで赤褐色粘質土の地山確認。遺構・遺物なし。
19.6.14～6.19	早 川	※地表下約0.4mで鉄釘・瓦片を含む焼土混じりの淡茶灰色粘質土を確認。
20.2.27	早 川	地表下0.45mで焼土混じりの黄褐色粘質土を確認。遺構・遺物無し。
19.11.29	橋 本	地表下約1mで耕作土確認。遺構面に達せず。
19.9.3～9.4	西 村	※地表下0.65mで耕作土確認。遺構面に達せず。
19.5.2～12.28	早 川	※地表下0.5m まで盛土確認。遺構面に達せず。
19.12.11～20.3.14	橋 本	盛土内の掘削。
20.2.4	早 川	地表下0.5m まで盛土確認。遺構面に達せず。
20.2.13	西 村	地表下約0.3m まで盛土確認。遺構面に達せず。遺構・遺物無し。
20.2.18	西 村	地表下約0.6m まで盛土確認。遺構面に達せず。遺構・遺物無し。
20.3.3	西 村	地表下約0.7m まで盛土確認。遺構面に達せず。遺構・遺物無し。
20.3.3	西 村	地表下約1.2m まで盛土確認。遺構面に達せず。遺構・遺物無し。
20.3.11	橋 本	盛土内の掘削。
19.4.23	早 川	地表下0.5m まで盛土確認。遺構面に達せず。
20.6.20	大阪府	大阪府教育委員会が担当。遺構・遺物無し。
19.8.27	早 川	※地表下0.3m まで盛土確認。遺構面に達せず。
19.10.30	西 村	地表下0.8mで灰褐色粘土を確認。外堀の埋土と想定。遺物無し。
19.10.30	西 村	地表下0.9mで灰褐色砂質シルトを確認。外堀の埋土と想定。遺物無し。
19.12.17	早 川	地表下0.4m まで盛土確認。
20.02.14	橋 本	盛土内の掘削。
19.12.25	早 川	※地表下0.7mで青灰色粘土を確認。外堀の埋土と想定。遺物無し。
20.1.8	西 村	地表下0.5mでにぶい黄橙色砂質土を確認。外堀の埋土と想定。遺物無し。
20.2.27	橋 本	盛土内の掘削。
20.1.11	高 橋	地表下1.5mで黒灰色粘土を確認。外堀の埋土と想定。遺物無し。
20.2.22	早 川	地表下0.4m まで盛土確認。遺構面に達せず。
19.12.17～20.3.14	橋 本	地表下約1mで黄灰色粘土確認。遺構面確認できず。
19.12.11～20.3.14	橋 本	地表下約1mで黄灰色粘土確認。遺構面確認できず。
19.4.27	橋 本	史跡現状変更 申請どおりに施工
19.7.9	西 村	地表下約0.3mで盛土確認。遺構面に達せず。
19.6.18～6.19	早 川	地表下約2mで褐色シルトの地山検出。溝とみられる遺構確認。包含層から土師器高杯出土。
19.9.19	大阪府	
20.2.4	橋 本	盛土内の掘削。
19.7.18	早 川	地表下0.5m まで盛土確認。遺構面に達せず。
19.8.31	橋 本	盛土内の掘削。
19.10.26	橋 本	地表下約4m まで砂層を確認。

※は高槻市文化財調査概要35 「嶋上遺跡群32」に掲載

2. 埋蔵文化財の調査

□平成19年度の調査(表1～3)

平成19年度の土木工事に伴う埋蔵文化財調査の届出件数は繰越分を含めて85件で、このうち18遺跡について、発掘調査26件(現状変更13件を含む)、工事立会47件をそれぞれ実施した(表3参照 大阪府調査分を含む)。

件数が多いのは高槻城跡(発掘調査1件・工事立会11件)、次いでミクリ遺跡(発掘調査1件・工事立会8件)、郡家今城遺跡(発掘調査4件・工事立会5件)となっている。主に個人住宅の建設に伴うものである。

嶋上郡衙跡では史跡指定地の南西側に隣接した地区で発掘調査を実施し、北西から南東に向かう溝を3条、土坑等を検出した。溝からは縄文土器片、土坑からは土師器片が出土しているが、遺構の詳細は不明である(2007-A)。

富田遺跡では、これまで現在の教行寺周辺において焼土を含む堆積土や整地土が確認されており、今回教行寺の北側に位置する地区の調査でも鉄釘や瓦片を含む焼土層が確認された。これらは、天文元年(1532)の細川晴元らによる焼き討ちとの

かわかりが指摘されており、今後の周辺での調査の進展が期待される(2007-1)。

なお、史跡今城塚古墳では第4次整備工事に先立つ事前確認調査、史跡鬮鷄山古墳では確認調査を継続して実施した。

3. 文化財資料等の刊行

- ・『秋季特別展図録 三好長慶の時代
—「織田信長芥川入城」の以前以後—』
- ・『第10回企画展リーフレット 高槻の絵馬』
- ・『史跡・今城塚古墳
—平成18年度第10次規模確認調査—』
- ・『古代の匠に挑戦!石棺復元体験の手引き
—二上山白石編—』
- ・『古代の匠に挑戦 平成18・19年度
石棺復元体験事業の記録』
- ・『高槻市文化財調査概要35 嶋上遺跡群32』
- ・『高槻市文化財年報 平成17・18年度』

個人住宅	造成・分譲住宅	事務所・店舗等	上・下水道水路	駐車場・倉庫等	史跡管理等	試掘・確認調査	その他	合計
24	21	2	7 (1)	2	7 (7)	2 (2)	8 (3)	73 (13)

表2 届出別調査及び立会件数

下段()内は史跡現状変更申請に伴うもの

遺跡名	調査	立会	小計	遺跡名	調査	立会	小計	遺跡名	調査	立会	小計
嶋上郡衙跡	6	1	7	津之江南遺跡	1	4	5	安満遺跡	2	2	4
郡家本町遺跡	1	6	7	中城遺跡		1	1	神内遺跡		1	1
鬮鷄山古墳	1		1	富田遺跡		2	2	梶原南遺跡		2	2
土室遺跡	2		2	ミクリ遺跡	1	8	9	鶴殿遺跡		1	1
今城塚古墳	6		6	大蔵司遺跡		1	1	合計	26	47	73
郡家今城遺跡	4	5	9	高槻城跡	1	11	12				
宮田遺跡		1	1	悉壇寺跡	1	1	2				

表3 遺跡別調査及び立会件数

II 文化財の保護及び保存

1. 高槻市文化財保護審議会

・委員の選出

野田正三委員に代わり、鈴木登委員を選出した。

任 期：5月11日～平成20年5月7日

・第1回：7月24日

- ①平成19年度事業について
- ②史跡安満遺跡保存管理計画等について
- ③しろあと歴史館企画展・特別展について
- ④文化財の掘り起こし調査について
- ⑤その他

・第2回：平成20年2月28日

- ①平成19年度事業経過報告及び平成20年度事業方針(案)について
- ②しろあと歴史館企画展・特別展について
- ③文化財の掘り起こし調査について
- ④その他

文化財保護審議会委員

	氏 名	専 門
委員 長	川上 貢	建 造 物
副委員 長	井藤 徹	学 識 経 験
委 員	井上 正	美 術 工 芸
委 員	鈴木 登	天 然 記 念 物
委 員	原 泰根	民 俗 文 化 財
委 員	原口 正三	埋 蔵 文 化 財
委 員	脇田 修	古 文 書

2. 高槻市史跡整備指導検討会

市内に所在する史跡等について、より良い保存と公開に向けて、専門的見地から指導・助言を得るとともに、調査から整備に関する一連の課題を検討するため設置した。

・第1回：7月25日

- ①市内史跡等の概況

- ②史跡安満遺跡について

- ③史跡今城塚古墳について

- ④史跡鬮鶏山古墳について

・第2回：平成20年3月19日

- ①史跡安満遺跡について

- ②史跡今城塚古墳について

- ③史跡鬮鶏山古墳について

高槻市史跡整備指導検討会委員

	氏 名	所 属 等
座 長	和田 晴吾	立命館大学文学部
副座長	岡村 道雄	奈良文化財研究所
委 員	水野 正好	大阪府文化財センター
委 員	原口 正三	高槻市文化財保護審議会委員
委 員	和田 萃	京都教育大学
委 員	肥塚 隆保	奈良文化財研究所
委 員	増渕 徹	京都橘大学文学部
委 員	岸本 直文	大阪市立大学大学院

3. 安満遺跡調査指導検討会

安満遺跡内に所在する京都大学大学院農学研究科附属農場における埋蔵文化財の範囲確認調査について、学術的な指導助言を得るため設置した。

・第1回：11月13日

- ①安満遺跡確認調査計画について

安満遺跡調査指導検討会委員

	氏 名	所 属 等
座 長	工楽 善通	大阪府立狭山池博物館
委 員	井藤 徹	高槻市文化財保護審議会委員
委 員	福永 伸哉	大阪大学大学院文学研究科

4. 史跡今城塚古墳保存整備事業

事前確認調査

史跡整備の基礎データを集積するため実施。後

円部上面で石室基盤工の一部を検出したほか、南北造出と前方部南北隅部を確認した。

調査期間：11月20日～平成20年3月31日

□第4次整備工事

地下遺構を保存しつつ緑豊かな史跡公園として活用するため整備工事をおこなった。今年度は、墳丘と内濠の一部を復元するとともに、形象埴輪を復元製作した。

工期：9月17日～平成20年9月30日

□ガイダンス施設

今城塚古墳と三島古墳群を学習でき、さらに歴史都市・高槻を全国に発信していく拠点として今城塚古墳の北側に建設予定のガイダンス施設について、「今城塚古墳等ガイダンス施設基本設計検討会」を立ちあげ、市民の意見を反映させながら設計作業を進め、「仮称今城塚古墳等ガイダンス施設建築・展示基本設計書」を策定した。

5. 史跡關鷄山古墳保存整備事業

史跡整備の基礎データを集積するため、第6次確認調査を実施した。後円部北西側裾部の状況が明らかになるとともに、前方部東及び南側丘陵部斜面の地山状況を確認することができた。また保存環境調査を昨年度に引き続き実施した。

さらに、調査手法を検討するため、第1主体石槨の実物大部分模型を作成した。

調査期間：10月1日～平成20年3月26日

6. 史跡の土地の買上げ

史跡保存のため、嶋上郡衙跡、安満遺跡、今城塚古墳の土地の買上げをおこなった。また、今城塚古墳では土地の寄付を受けた。平成19年度末の公有地状況は次表のとおりである。

史跡名	19年度累計面積	公有化率
嶋上郡衙跡附寺跡	22,364.84 m ²	22.8%
安満遺跡	21,703.22 m ²	33.5%
今城塚古墳	84,453.67 m ²	99.1%
關鷄山古墳	19,962.93 m ²	96.1%

7. 出土遺物保存処理

出土木製品の恒久的保存を図るため、保存処理をおこなった。

・上土室遺跡出土鉄製品

(鉄刀4点 樹脂含浸による保存処理)

8. 収蔵・管理

□展示・保存環境調査報告

国指定文化財の展示公開が可能な公開承認施設の認定を受けるため、しろあと歴史館の環境調査結果(温度・湿度・偏苛度)を毎月1回、独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所に報告し、あわせて指導を受けた。

また、空気環境測定試薬「パッシブインジゲータ」により、収蔵室等の空気環境の簡易測定を実施した。

□収蔵品の燻蒸

収蔵文化財の殺虫・殺カビのため、燻蒸を実施した。

実施日：11月18日～21日

薬剤：エキヒューム

対象：新規寄贈及び寄託文化財、古文書、美術工芸品、民具、版本、書籍

□収蔵環境の改善

収蔵室の空気環境を改善し、古文書等を長期に渡って適切に保存するため、段ボール製(酸性紙製)古文書容器を中性紙製古文書保存容器に全て入れ替えた。

9. 文化財の寄贈・寄託

掘り起こし調査によって、市民等から寄贈・寄託された物件は、以下のとおりである。

□寄贈物件 18件 48点

主な寄贈物件

・「刀 銘 筑前国福岡住是次」

附 黒漆一分刻鞘打刀拵

旧高槻藩士家伝来品。17世紀後半に活躍した福岡石堂派の刀工・是次の作。同派が得意とした「丁子乱(ちょうじみだれ)」と呼ばれる変化に富む華やかな刃文を表している。

・「紺糸威桶側胴具足」

江戸時代後期の制作。背面の待受(指物を立てる装置)に「四」と朱漆書きされ、高槻藩が定めた「三角」の前立を備えることから、高槻城内に保管された御貸具足とみられる。

・「刷毛目手焙」(古曾部焼)

4代五十嵐新平(1851～1918)によって明治時代に制作された。

□寄託物件 13件 30点

主な寄託物件

・淀川の舟運に関する陶磁器類

伏見の船宿で使われたと伝える徳利、淀川で採取された波佐見焼(くらわんか茶碗)や中国製陶磁器の破片。

・藤井竹外・高階春帆の書

幕末の高槻藩士で、漢詩人として著名な藤井竹外の書「薬師寺」「洗竹」の2点。竹外の門人・高階春帆の書1点。

10. 登録文化財の整備

大阪医科大学看護専門学校校舎(大学町所在国登録有形文化財)については、国庫補助(設計監理費)を受けて同大学により修復工事が行われた。なお修復後は、大阪医科大学歴史資料館として公開されている(見学には同大学に事前予約が必要)。

11. 指定文化財への修理助成

指定建造物の経年劣化等に伴う修理事業に対して助成援助し、適切な保存を図った。

□本照寺 山門及び鐘楼(市指定有形文化財)

概要：山門は本堂の南側に位置する大規模な四脚門で、本堂再建と同時期(寛政10年・1798年ごろ)の建立とみられる。屋根は切妻造・本瓦葺で、前後に軒唐破風を持つ。近年雨漏りが目立ち、平成18年に所有者において応急修理が施された。

鐘楼は本堂再建以前の建立で、これまで根本的な修理は施されていない。平成18年の調査では時計回りに振れが生じ、軸部の緩みや雨漏りにより軒廻りの破損腐食が進み、倒壊の恐れが指摘されたため、応急的な補強措置を施した。こうしたことから、宗教法人本照寺の直営事業として、山門と鐘楼の本格的な解体修理が計画、実施され、事業費の一部を市が補助した。

修理の概要は以下のとおりである。

山門〔屋根を全面葺替え〕：腐食した野地等の取り替え・部分修理、地震対策として葺き土を用いない全面空葺工法で葺き直し

鐘楼〔全面解体修理〕：軸組各部の腐食破損材を修理して組み直し。回転を押さえるため火打材を付加し、軒先の垂下を防ぐため桔木を補足。屋根は全面空葺工法で荷重を軽減。

特記事項：解体時には実測・写真撮影など詳細な記録を作成した。修理にあたり支障のない限り当初材を再利用した。

期間：9月12日～平成20年3月25日

□普門寺方丈および庭園(重要文化財・名勝)

概要：普門寺庭園は、昭和56年に庭園とその背景をなす北側及び西側の土塁に画された区域が名勝指定され、平成12年に方丈・表門など庭園と風致景観上一体をなしている区域が追加指定された。

このうち方丈は、昭和59年の解体修理以降、

所有者においてこけら葺屋根の部分修理がおこなわれた以外、保存修理はおこなわれておらず、東・西・南面屋根は葺き込み銅板付近のこけらが風化して竹釘も露になり、北面屋根でもこけらが割れ、軒付の一部や入母屋破風尻部分の軒付に水が廻っていた。また板壁にひずみ等がみられ、建具の取り付け不良や、戸板、金具の欠損によって開閉が困難になるなど、経年変化が目立つようになっていた。

一方表門は、阪神大震災によって東側に傾き、倒壊を防ぐ応急措置を施されていた。また土塀にはクラックや腐食が発生し、枯山水庭園では樹木繁茂により配置した石が起き上がっていた。

そこで今回、方丈については屋根葺替と板壁・

板戸および建具の部分修理や床下の土壌処理、表門は解体修理、土塀は壁塗り直し部分修理、庭園は樹木剪定による修景が計画された。設計監理は財団法人文化財建造物保存技術協会による。事業は宗教法人普門寺が直営し、平成19・20年度国庫補助事業として実施され、補助事業者負担の一部を市が補助した。

期 間：平成20年2月1日～

平成21年12月31日

Ⅲ 文化財の普及啓発及び活用

1. しろあと歴史館

□特別展

- ・秋季特別展「三好長慶の時代

『織田信長 芥川入城』の以前以後

会 期：9月29日～11月25日 50日間

観覧者数：3,530人

概 要：阿波を本拠とする三好長慶は天文22年(1553)に畿内に進出して芥川城に入った後、ここから広く京畿に号令し、全盛期を迎えた。しかし、永禄11年(1568)の織田信長の芥川入城によって、その政権は終わりを告げる。いま見られる高槻の町や村はこの時代に形づくられ、人々は長慶の古文書を「由緒」として大切に守ってきた。本展では、戦国大名「三好長慶」像とその時代について、信長上洛をキーワードに、戦国時代の終焉に迫った。

展示品：三好長慶画像(重要文化財・大徳寺聚光院蔵)、織田信長禁制(重要文化財・離宮八幡宮蔵)、三好義継禁制(同)、松永久通禁制(同)三好長慶画像(南宗禅寺蔵)、芥川孫十郎禁制(重要文化財・離宮八幡宮蔵)、細川晴元禁制(同)、三好之康禁制(同)など 61件95点



- ・春季特別展「絵でみる考古学

－早川和子原画展－

会 期：平成20年3月8日～30日 19日間

観覧者数：2,196人

(詳細は本書 3 - I 参照)

□企画展

- ・第9回企画展「江戸時代の旅と名所」

会 期：7月21日～8月26日 32日間

観覧者数：1,815人

概 要：街道の発達に伴い庶民の旅が盛んになった江戸時代。人々は全国各地を訪ね、宿場には旅籠が立ち並んだ。また様々な名所・旧跡を挿絵つきで紹介した「名所図会」が出版され、人々は旅への思いを高めた。本展では、当時の旅道具をはじめ、道中記や名所図会などの出版物・古文書などから、江戸時代の旅の様子や名所を紹介。また文化財スタッフの会の指導により、旅にちなむ双六ゲーム、「ぞうり」作りなどを観覧者に体験してもらう体験コーナーを設置した。

展示品：宿札・道中着・笠・わらじ・矢立など(箕面市立郷土資料館蔵)、『旅行用心集』『撰津名所図会』(伊丹市立博物館蔵)、寺社の授与品、往来手形、陣笠、印籠、『花みやげ』『高槻名所遊覧案内』など 45件160点

- ・第10回企画展「新春 絵馬展」

会期：平成20年1月4日～2月24日 45日間

観覧者数：3,287人

概 要：新しい年を迎え、一年の無事と平安を祈るため初詣や初参りで奉納される絵馬。元来は個人祈願であった形は、後に共通の願いを持つ集団による「大絵馬」の奉納に変化していく。本展では、高槻市内の神社・寺院に納められた

「大絵馬」を展示し、地域の人々の思いや、当時の社会生活・風俗を紹介した。また、同時に、当館のコレクションから、全国各地の多彩な小形の絵馬も展示した。

展示品:「寅」(本山寺蔵)、「神峯山寺寅講」(神峯山寺蔵)、「獅子舞」(筑紫津神社蔵)、「三韓征伐」(阿久刀神社蔵)、『高槻城』(野見神社蔵)、「騎牛帰家」(上宮天満宮蔵)、「川中島合戦」(磐手杜神社蔵)、「加藤清正」(春日神社蔵)「富田踊」(三輪神社蔵)など 67件67点

□分館(歴史民俗資料館)企画展

・「ちょっと昔の農具たち」

会期:平成20年1月23日～3月31日

□講座

・春季特別展連続講座「伏見人形とその系譜」

①4月15日「史料にみる伏見人形」

講師:西本幸嗣(しろあと歴史館学芸員)

②4月22日「江戸時代の土製玩具

～城下町大坂の出土品から」

講師:川村紀子氏

(〔財〕大阪市文化財協会学芸員)

③4月29日「暮らしを彩る伏見人形」

講師:藤森寛志(しろあと歴史館専門員)

④5月6日「伏見人形の制作」

講師:大西時夫氏(7代目「丹嘉」)

参加者数:125人(全4回)

・第5回学芸員講座「日本刀の歴史と鑑賞」

6月29日・30日

講師:千田康治(しろあと歴史館学芸員)

参加者数:86人(全2回)

・第9回企画展連続講座「旅と巡礼～入門編」

①8月5日「江戸時代の旅と街道」

講師:胡桃沢勘司氏(近畿大学教授)

②8月19日「北摂古寺巡礼」

講師:滝沢幸恵氏(吹田市立博物館学芸員)

③8月26日「巡礼の旅と広がり」

講師:西本幸嗣(しろあと歴史館学芸員)

参加者数:165人(全3回)

・秋季特別展記念講演会「三好長慶と織田信長」

10月6日

「三好長慶の時代」

講師:仁木 宏氏(大阪市立大学大学院

文学研究科准教授)

「織田信長の時代」

講師:脇田 修氏(大阪歴史博物館館長)

対談「三好長慶と織田信長」

パネラー:仁木 宏氏、脇田 修氏

コーディネーター:森田克行(しろあと歴史館館長)、中西裕樹(同館学芸員)

参加者数:160人

・秋季特別展連続講座

「三好長慶と戦国時代を語る」

①10月14日「三好一族の戦国時代と江戸時代」

講師:須藤茂樹氏(徳島市立徳島城博物館

主任学芸員)

②10月21日「三好長慶 研究最前線」

講師:天野忠幸氏(大阪市立大学都市文化

研究センター研究員)

③10月28日「古文書からみた戦国時代」

講師:小谷利明氏

(〔財〕八尾市文化財調査研究会事業係長)

④11月4日「モノからみた戦国時代」

講師:橋本久和

(埋蔵文化財調査センター主査)

参加者数:464人(全4回)

・第6回学芸員講座

『特別展「三好長慶の時代」を観る』

11月16日・20日

講師:中西裕樹(しろあと歴史館学芸員)

参加者数:43人(全2回)

・第7回学芸員講座「長慶・信長の古文書を読む」

11月22日

講師：西本幸嗣(しろあと歴史館学芸員)

参加者数：28人

- ・第8回学芸員講座「切支丹考古学の現在
— 高槻城キリシタン墓地を中心に」

12月6日

講師：高橋公一

(埋蔵文化財調査センター主査)

参加者数：76人

- ・第7回館長講座「古墳と埴輪の物語」
 - ①平成20年2月10日「埴輪祀りの変遷」
 - ②2月24日「埴輪芸能論のゆくえ」
- ・第10回企画展講座「絵馬をめぐる歴史と民俗」
平成20年2月11日

講師：岩井宏實氏(帝塚山大学名誉教授)

参加者数：86人

- ・連続講座「城と城下をゆくⅡ～京洛編」
 - ①平成20年2月16日「京洛の城とまち
～平安京から秀吉まで」

講師：福島克彦氏

(大山崎町歴史資料館学芸員)

- ②2月23日「秀吉の城～聚楽第と伏見城」
講師：森島康雄氏(〔財〕京都府埋蔵文化財
調査センター主任調査員)

- ③3月1日「京を守る幕末の台場
～高槻の梶原台場」

講師：中西裕樹(しろあと歴史館学芸員)

参加者数：392人(全3回)

- ・春季特別展記念講演会
「古代の遺跡を復元!～絵でみる考古学」

平成20年3月23日

講師：早川和子氏(考古学イラストレーター)

森田克行(しろあと歴史館館長)

岩村浩一(同館事務長)

参加者数：89人

□教室

- ・綿づくり体験教室～綿から糸、そして織り～

①6月9日 ②7月28日 ③9月1日

④10月13日 ⑤11月10日

講師：①李熙連伊氏(八尾市立

歴史民俗資料館学芸員)

②～⑤西本幸嗣

(しろあと歴史館学芸員)

参加者：199人(全5回)

- ・古代甲冑づくり教室

①平成20年3月15日 ②3月22日

③3月29日

講師：千田康治(しろあと歴史館学芸員)

参加者：93人(全3回)



- ・春休みイラスト教室

平成20年3月30日

講師：早川和子氏(考古学イラストレーター)

参加者数：13人

2. 文化財ボランティア

「歴史遺産を活かしたまちづくり」の一環として、市民も含めた積極的な文化財普及活動を進め、地域に根ざした文化財の保護・啓発に協働することを通じて、郷土の歴史・文化に対する市民の理解と愛護意識の向上をはかる。これらを実践するため、市民ボランティアを文化財スタッフとして育

成しつつ、協働事業を実施した。

□文化財スタッフの主な活動

・文化財スタッフ実習・研修

より高度かつ実践的な知識・技能を習得し、レベルアップを図るため、実習・研修を実施した。

① 6月17日・7月22日・8月12日・9月17日
10月21日・11月25日・12月16日・3月16日
「歴史サロン」

② 6月29日～30日「ミニわらじづくり研修」

③ 7月18～19日・12月26日～27日・3月7日
「企画展事前研修」

④ 9月27日～28日「特別展事前研修」

⑤ 12月8日「第1回文化財スタッフ実践研修」

⑥ 2月24日「第2回文化財スタッフ実践研修」

・しろあと歴史館常設展示案内ガイド

案内した来館者 1,524人

・サポート活動

① 4月・5月 埋蔵文化財調査センターの
小学生向け展示ガイド(19校1,608人)

② 5月26日27日 第13回ハニワづくりと
スケッチ・ぬりえ大会

③ 6月6日 今城塚古墳清掃

④ 8月22日～27日 今城塚古墳出土埴輪
特別公開

⑤ 11月8日 高槻城跡周辺清掃

⑥ 11月23日 淀川三十石船舟唄全国大会

⑦ 12月8日 現代劇場「伏見人形」展示会

3. 第15回淀川三十石船舟唄全国大会

大阪府指定無形民俗文化財「淀川三十石船船唄」の継承、普及、発展を図るため第15回全国大会を実施した。

日 程：11月23日

会 場：高槻現代劇場中ホール

出場者：233人(ジュニアの部25人)

入場者：600人

主 催：淀川三十石船舟唄全国大会実行委員会

4. ハニワづくりとスケッチ・ぬり絵大会

第13回大会を史跡新池ハニワ工場公園で開催
大会日程：5月26・27日

参加者数：664人

作品展示：7月25日～29日(ジャスコシティ高槻スタジアムコート)

5. 石棺復元体験イベント「古代の匠に挑戦！」

史跡今城塚古墳から出土した3種類の石棺を、毎年1基ずつ市民参加を得て復元し、古代の技術を体験しようとするもので、2年目の今回は奈良県二上山産の二上山白石製組合式家形石棺の復元に取り組んだ。和田晴吾立命館大学教授の指導のもと、蓋板3枚、底板4枚、短側板各1枚、長側板各2枚の合計13枚の板状石材を二上山からの転石から削り出したのち、市民参加による表面仕上げは今城塚古墳に搬入しておこなった。石材各部にコタタキ(石工用片刃金槌)で横一文字の加工痕を施し、内部に水性赤色塗料を塗布したのち、組み上げた。復元石棺の規模は長さ230cm、幅120cmで、蓋の高さ20cm、身の高さは90cm、重さは約5.2tである。(図版第1a参照)

実施日：平成20年3月4日～17日の6日間

参加者数：162人(延べ)

また、二上山白石に関する知識を深め、石棺復元体験に生かすことできるように、大阪府立近つ飛鳥博物館と二上山屯鶴峰を訪れる現地学習会を実施した。

実施日：平成20年2月22日

参加者数：44人

6. 歴史講座

文化財の普及・啓発を促進するため、生涯学習センターと共催で『けやきの森市民大学 歴史講座』を開催した。講話は各回とも埋蔵文化財調査センター職員が務めた。

・「高槻の歴史 — 考古学最新情報 — 」

①10月15日「旧石器～弥生時代の高槻」

講師：宮崎康雄

②10月22日「古墳時代の高槻」

講師：高橋公一

③10月29日「古代・中世の高槻」

講師：橋本久和

④11月5日「戦国時代の高槻」

講師：早川 圭

受講者総数：634人(全4回)

7. 史跡今城塚古墳出土埴輪の特別公開

継続して整理作業を実施している史跡今城塚古墳埴輪祭祀場出土の形象埴輪について、公開を求める要望に応えるため、復元作業が完了した埴輪について展示公開をおこなった。誘導・解説・質疑応答については文化財課職員と市民ボランティア「高槻市文化財スタッフの会」が協働して実施した。

実施日：8月22日～27日(6日間)

場 所：埋蔵文化財調査センター収蔵展示室

参加者総数：261名

8. 「えきちかギャラリー」展示

JR高槻駅地下通路壁面に設置されている「えきちかギャラリー」において、『ふれてみませんか 高槻の歴史遺産』と題する展示をおこなった。展示ギャラリーを4単位使用し、史跡今城塚古墳の調査成果・整備・活用イベントのパネルやしろあと歴史館の特別展のポスターを掲示したほか、これまでに刊行した図録等も展示した。

実施日：10月9日～23日

9. 研修等の受け入れ及び講師の派遣

各機関や団体の依頼に基づき、研修等を受け入れ、講師を派遣した。

・大阪行政相談委員協議会北摂支部相談委員及担

当行政職員研修(11月15日 しろあと歴史館)

・三島地区社会科教育研究会見学会(平成20年1月7日 埋蔵文化財調査センター)

・高槻市教育センター 平成19年度社会科研修(平成20年2月19日 埋蔵文化財調査センター)

・若狭三方縄文博物館友の会『DOKIDOKI会』研修会(平成20年3月1日 しろあと歴史館・埋蔵文化財調査センター・ハニワ工場公園等)

10. 施設見学会の受け入れ

市広報広聴室市民相談センターによる一般市民を対象とした施設見学会を受け入れた。

しろあと歴史館 2件

埋蔵文化財調査センター 1件

11. 市内中学校の受け入れ

市内中学校からの協力依頼に基づき体験学習等を受け入れた。

□職業体験学習

しろあと歴史館：阿武山中学校・川西中学校・冠中学校・芝谷中学校・第三中学校・第六中学校・第八中学校・第九中学校・第十中学校
計 9校 延べ17日・27人

埋蔵文化財調査センター：第九中学校

計 1校 延べ1日・5人



□総合的な学習

埋蔵文化財調査センター：第二中学校

計 1校 延べ1日・7人

12. 新任教員の社会体験活動研修の受け入れ

異職種の実験を通じて、資質及び能力の向上をはかる研修の一環として新任教員を受け入れ、文化財の普及・啓発活動の研修を実施した。

- ・埋蔵文化財調査センター

実施日：7月29日

2人(郡家小)

実施日：8月22・23日

3人(川西小、樫田小、柳川小)

- ・しろあと歴史館

実施日：8月22・23日

7人(高槻小、三箇牧小、南大冠小、
柱本小、寿栄小、第九中)

実施日：8月25日

2人(郡家小)

13. 維持・管理

□「歴史の散歩路」整備

- ・新設：説明板4基、補助説明版1基、
駒札2基、標柱1本
- ・補修：顕彰碑1基、標柱15本

□青龍三年の丘 安満宮山古墳の修繕等

防水シールや墓坑レプリカの彩色等に経年劣化を生じたため、シェルター内外を補修した。レプリカ補彩は平成15年度以来2度目である。

- ・墓坑レプリカのクリーニング、樹脂充填、補彩
- ・シェルターガラス廻りの防水シール加工
- ・シェルター躯体の防水シール加工
- ・デッキ床面クラック埋めおよび防水加工
- ・シェルター内の換気扇取替
- ・シェルター周囲の排水溝の更新
- ・シェルター南側舗装の更新

14. 文化財の活用

□図書の受納 1,958冊(歴史館185冊
埋文センター1,773冊)

□掲載許可・貸出 99件680点

[歴史館20件392点(写真261点 資史料131点)

埋文センター78件287点(写真215点遺物72点

文化財チーム1件1点)]

15. 文化財公開施設の利用状況

・しろあと歴史館	29,044人
・(分館)歴史民俗資料館	17,804人
・埋蔵文化財調査センター	2,690人
・史跡新池ハニワ工場公園	13,897人
・青龍三年の丘(安満宮山古墳)	3,952人

2 平成20年度

I 文化財の調査及び研究

1. 文化財の調査

□文化財の掘り起こし調査

しろあと歴史館の展示資料の充実及び本市の歴史・文化の発掘のため、文化財の掘り起こし調査を54件実施し、資料化を図った。(本書2-II-9 参照)

□特別展開催に伴う事前調査

開館5周年記念特別展「摂津三島の遺宝-考古資料精選-」の開催にあたり、国宝「石川年足墓誌」や重要文化財「太田廃寺舍利容器」等の調査を実施し、展示の充実と研究の進展に努めた。

調査先：大阪歴史博物館、京都大学考古学研究室、京都大学総合博物館、国立歴史民俗博物館、東京国立博物館、東京大学駒場博物館など

□企画展「シリーズ高槻の村と町」に伴う郡家地域の悉皆調査

郡家地域に所在する神社・寺院をはじめ、個人が所蔵する古文書・美術工芸品等の文化財ならびに聞き取り調査を実施し、展示の充実と研究の進展に努めた。

調査先：久安寺、素盞鳴尊神社、妙圓寺、淀川資料館、郡家地域の個人宅等

□春季特別展「おおさかのおもちゃ」に伴う事前調査

全国有数の大阪の郷土玩具を有する「旧駒井コレクション」(白浜町教育委員会所蔵)の郷土玩具の記録保存と写真撮影をおこなった。

実施日：平成21年3月6日

調査先：白浜町教育委員会所蔵

□古文書の整理

高槻市史編纂時から所蔵する古文書及び特別展開催に際して収集した古文書について、目録作成、写真撮影・データ入力に努めた。

□原・八阪神社文書の調査

大字原・八阪神社宮司家に伝来する古文書群の目録作成・写真撮影・翻刻作業を実施した。

本資料群は、主に江戸時代から明治時代にかけて、神社の神事や宮司の役割等を記したものである。

現地調査：7月6日

調査期間：7月6日～11月6日

□収蔵資料(古式鉄砲)の調査

川口コレクション及び掘り起こし調査によって寄贈された古式銃砲(火縄銃)について、専門家の指導のもと調査を実施するとともに、防錆用油の塗布等の保存処置をほどこした。

実施日：平成21年3月20日

調査指導：澤田 平氏(堺鉄砲研究会主宰)

□収蔵資料(伝島津忠義所用甲冑)の調査

川口コレクションのうち、薩摩藩主島津忠義及びその夫人の所用と伝える甲冑について調査した。京都国立博物館所蔵の伝島津斉彬所用の甲冑との類似点が確認できた。

実施日：6月5日

調査指導：久保智康氏

(京都国立博物館工芸室長)

No.	遺跡名	所在地	届出者	用途	面積(㎡)	種別
1	史跡嶋上郡街跡(2008-A)	郡家新町255-1他	松下電器照明社	解体工事	7,800	調査
2	史跡嶋上郡街跡(2008-B)	清福寺町906-1地先	東京建物	敷鉄板	45	調査
3	嶋上郡街跡(2008-C)	郡家新町500・525	NTTドコモ関西	携帯基地局	50	立会
4	嶋上郡街跡(2008-D)	郡家新町163-14	個人	個人住宅	104.88	立会
5	嶋上郡街跡(2008-E)	清福寺町919-31	個人	個人住宅	53.47	立会
6	嶋上郡街跡(2008-F)	郡家新町355-5	個人	共同住宅	657.86	調査
7	嶋上郡街跡(2008-G)	川西町一丁目956-15	個人	個人住宅	61.21	立会
8	嶋上郡街跡(2008-H)	郡家新町163-21	O・N・O	分譲住宅	62.49	立会
9	史跡嶋上郡街跡(2008-H)	清福寺町982-3	高槻市	便所改修	—	調査
10	嶋上郡街跡(2008-I)	郡家新町156-17	個人	個人住宅	49.23	立会
11	嶋上郡街跡(2008-J)	郡家新町156-43	個人	個人住宅	53.45	立会
12	史跡嶋上郡街跡(2008-K)	川西町一丁目1000.1001	高槻市教育委員会	耐震改裝	—	調査
13	史跡嶋上郡街跡(2008-L)	郡家新町294他	郡家本町実行組合	水路補修	L=33.77m	調査
14	史跡嶋上郡街跡(2008-M)	郡家新町907-2他	高槻市教育委員会	フェンス設置工事	L=40m	調査
15	嶋上郡街跡(2008-O)	郡家本町523-1	春樹会	福祉施設	299.63	調査
16	史跡嶋上郡街跡(2008-P)	清福寺町905番地	高槻市教育委員会	フェンス設置工事	L=42m	調査
17	嶋上郡街跡(2008-Q)	郡家新町280-1	吉岡建設	駐車場建設	803	調査
18	郡家本町遺跡(2008-A)	郡家本町922他	妙圓寺	庫裏建設	1,655.89	調査
19	郡家本町遺跡(2008-B)	郡家本町927	個人	個人住宅	269.88	立会
20	史跡今城塚古墳(2008-A)	郡家新町地内	高槻市教育委員会	4次整備工事	28,410	調査
21	史跡今城塚古墳(2008-B)	郡家新町671先	高槻市教育委員会	暗渠補修	1.5	調査
22	史跡今城塚古墳(2008-C)	郡家新町地内	高槻市教育委員会	5次整備工事	13,850	調査
23	史跡今城塚古墳(2008-D)	郡家新町670他	高槻市教育委員会	仮設フェンス設置工事	L=180m	調査
24	史跡今城塚古墳(2008-E)	郡家新町2・3他	高槻市教育委員会	樹木伐採	—	調査
25	史跡今城塚古墳(2008-F)	郡家新町13-2他	高槻市教育委員会	事前確認調査	100	調査
26	史跡今城塚古墳(2008-G)	郡家新町8-2・3他	高槻市教育委員会	5次整備工事追加	4,960	調査
27	史跡今城塚古墳(2008-H)	郡家新町554-4	高槻市教育委員会	ボーリング調査	—	調査
28	宮田遺跡(2008-A)	宮田町三丁目90番の一部	個人	共同住宅	1,130.77	調査
29	津之江南遺跡(2008-1)	津之江北町263-14	個人	個人住宅	100.1	立会
30	津之江南遺跡(2008-2)	津之江北町263-12	個人	個人住宅	100.28	立会
31	津之江南遺跡(2008-A)	津之江北町263-13	個人	個人住宅	100.1	立会
32	富田遺跡(2008-1)	富田町六丁目2765-2	個人	個人住宅	100.67	立会
33	富田遺跡(2008-A)	富田町四丁目2524他	個人	個人住宅	202.7	立会
34	ミクリ遺跡(2008-1)	西町1041-33	個人	個人住宅	154.68	立会
35	ミクリ遺跡(2008-2)	西町1041-32	個人	個人住宅	166.18	立会
36	ミクリ遺跡(2008-3)	西町1041-40	個人	個人住宅	127.4	立会
37	ミクリ遺跡(2008-A)	西町1041-54	個人	個人住宅	194.48	立会
38	ミクリ遺跡(2008-B)	西町1067-22	個人	個人住宅	122.75	立会
39	田能北遺跡(2008-A)	田能小字スハノ下34番2他	高槻市農業協同組合	店舗	2,123.96	調査
40	宮之川原遺跡(2008-A)	宮之川原五丁目505-20	個人	個人住宅	96.05	立会
41	高槻城跡(2008-1)	大手町1134-1・2の各一部	個人	個人住宅	195.95	調査
42	高槻城跡(2008-A)	出丸町990-8他	個人	個人住宅兼事務所	114.02	立会
43	高槻城跡(2008-2)	出丸町990-7 1他	個人	個人住宅	194.59	立会
44	高槻城跡(2008-B)	野見町1244-7	ダイヤモンド建設	分譲住宅	67.2	立会
45	高槻城跡(2008-C)	出丸町990-68他	個人	個人住宅	219.94	立会
46	高槻城跡(2008-D)	出丸町1224-1	リンクシステム	分譲住宅	121.19	立会
47	高槻城跡(2008-E)	出丸町981-3 981-5	個人	個人住宅	148.28	立会
48	高槻城跡(2008-F)	出丸町981-4 981-6	個人	個人住宅	156.04	立会
49	高槻城跡(2008G)	出丸町1224-18	リンクシステム	分譲住宅	102.89	立会
50	高槻城跡(2008-H)	八幡町1056-22	個人	共同住宅	694.53	調査
51	高槻城跡(2008-I)	出丸町981-1	個人	個人住宅	100.44	立会
52	高槻城跡(2008-J)	出丸町992-9	個人	個人住宅	72.89	立会
53	安満遺跡(2008-A)	八丁畷町289-1	関西電力	変電設備改修	13,237.49	調査
54	安満遺跡(2008-B)	高垣町283-1	個人	共同住宅	418.84	調査
55	安満遺跡(2008-C)	高垣町261	個人	共同住宅	1,303.54	調査
56	安満遺跡(2008-1)	八丁畷町260・266	高槻市教育委員会	範囲確認	90	調査
57	史跡安満遺跡(2008-D)	八丁畷町226-1	高槻市教育委員会	フェンス設置工事	L=99.1m	調査
58	天川遺跡(2008-A)	須賀町272-1の一部他	個人	共同住宅	480	立会
59	鶴殿遺跡(2008-A)	鶴殿地先	国土交通省	土砂掘削	10,000	立会

表4 平成20年度調査地一覧

個人住宅	共同住宅	分譲住宅	店舗・ その他建物	駐車場	水路改修	史跡管理等	事前調査・ 確認調査	その他	合計
25	6	4	3	1	1	10 (10)	2 (1)	7 (4)	59 (15)

表5 調査及び立会件数

下段()内は史跡現状変更申請に伴うもの

期 間	担当者	調 査 内 容
20.4.18～6.30	橋 本	史跡現状変更 申請どおりに施工
20.4.11～21.3.31	橋 本	史跡現状変更 申請どおりに施工
20.7.22	橋 本	遺構面に達せず。
20.7.3	高 橋	地表下0.7mで礫混じり茶褐色粘質土の地山確認。遺構・遺物無し。
20.6.23	早 川	地表下0.55mまで盛土確認。遺構面に達せず。
20.8.20～22	早 川	地表下1.0～1.6mで礫混じり灰白色砂質土の地山確認。溝1条検出。包含層から須恵器片出土。
20.8.21	西 村	地表下約0.5mまで盛土確認。遺構面に達せず。
20.11.25	西 村	地表下約0.4mで耕作土確認。遺構面に達せず。
20.9.5～12.5	橋 本	史跡現状変更 申請どおりに施工
20.9.3	西 村	地表下約0.5mまで盛土確認。遺構面に達せず。
20.10.23	西 村	地表下約0.3mまで盛土確認。遺構面に達せず。
20.11.21～21.2.27	橋 本	史跡現状変更 申請どおりに施工
21.3.2～3.21	橋 本	史跡現状変更 遺構面に達せず。
20.12.12～21.3.11	橋 本	史跡現状変更 申請どおりに施工
21.3.31	早 川	地表下1.8mで褐色粘質土の地山確認。包含層から瓦器片等出土。
21.2.6～3.5	橋 本	史跡現状変更 申請どおりに施工
21.2.12・13	橋 本	地表下約0.3mで遺物包含層確認。
20.9.18	西 村	地表下0.2～0.6mでにおい黄橙色砂質土の地山・段丘崖確認。整地層から土師器出土。
21.1.19	早 川	地表下0.4mまで盛土確認。遺構面に達せず。
19.11.1～20.9.30	宮 崎	史跡現状変更 申請どおり実施を確認
20.7.7	高 橋	史跡現状変更 申請どおり実施を確認
20.10.17～21.7.31	宮 崎	史跡現状変更 申請どおり実施を確認
20.10.16	宮 崎	史跡現状変更 申請どおり実施を確認
20.12.15～21.1.27	宮 崎	史跡現状変更 申請どおり実施を確認
21.3.2～3.31	宮 崎	史跡現状変更 内堤南西隅部・北側内堤・北側外濠の状況を把握。(2-II-4参照)
21.2.20～7.31	宮 崎	史跡現状変更 申請どおり実施を確認
21.3.19～4.14	宮 崎	史跡現状変更 申請どおり実施を確認
20.5.9	橋 本	地表下約0.4mで黄灰色粘土の地山確認。遺構・遺物無し。
20.5.12～13	西 村	※地表下約0.9mで耕作土確認。遺構面に達せず。
20.5.14～15	西 村	※地表下約0.8mで耕作土確認。遺構面に達せず。
20.7.28	西 村	地表下約0.1mまで盛土確認。遺構面に達せず。
20.4.21～22	早 川	※地表下0.3mで黄灰色礫の地山確認。遺構・遺物無し。
20.10.17	早 川	地表下0.4mで礫混じり黄灰色土の地山確認。遺構・遺物無し。
20.4.15～16	橋 本	※地表下約0.5mまで盛土確認。遺構面に達せず。
20.5.19～20	橋 本	※地表下約0.85mまで盛土確認。遺構面に達せず。
20.7.2	早 川	※地表下約0.5mまで盛土確認。遺構面に達せず。
20.7.28	早 川	地表下0.4mまで盛土確認。遺構面に達せず。
20.12.9	西 村	地表下約1mまで盛土確認。遺構面に達せず。
20.7.17	橋 本	地表下約0.9mで耕作土確認。遺構・遺物無し。
21.2.9	早 川	地表下0.3mまで盛土確認。遺構面に達せず。
20.4.2～14	西 村	※地表下約1.2mで西側を下る斜面を検出。キリシタン墓地の東を区画する斜面と推定される。
20.5.26～30	西 村	地表下0.4mまで盛土確認。遺構面に達せず。
20.5.8～9	西 村	※地表下0.85mまで盛土確認。遺構面に達せず。
20.6.11	早 川	地表下0.4mまで盛土確認。遺構面に達せず。
20.7.17	早 川	地表下0.5mまで盛土確認。遺構面に達せず。
20.8.8	早 川	地表下0.5mまで盛土確認。遺構面に達せず。
20.9.11	早 川	地表下0.3mまで盛土確認。遺構面に達せず。
20.9.11	早 川	地表下0.3mまで盛土確認。遺構面に達せず。
20.8.8	早 川	地表下0.5mまで盛土確認。遺構面に達せず。
21.3.3	早 川	地表下1.6mで青灰色粘土確認。外堀埋土と想定。遺物無し。
20.12.15	西 村	地表下約0.6mまで盛土確認。遺構面に達せず。
20.12.5	早 川	地表下0.6mで盛土確認。遺構面に達せず。
20.7.3	西 村	地表下0.9mで檜尾川氾濫層確認。遺構・遺物無し。
20.10.27～28	橋 本	地表下0.3mで暗褐色土の包含層確認。弥生土器出土。
20.11.17～18	橋 本	地表下0.3mで暗褐色土の遺物包含層確認。須恵器出土。
20.11.26～21.3.31	橋 本	※内・外側環濠・自然流路を検出。環濠内から多量の前期の土器のほか、漆塗り櫛などが出土。
20.12.12～21.3.11	橋 本	※史跡現状変更 遺構面に達せず。
20.10.28	早 川	地表下0.5mまで盛土確認。遺構面に達せず。
21.1.23	橋 本	地表下約5mまで土砂堆積確認。遺構・遺物無し。

※は高槻市文化財調査概要36「嶋上遺跡群33」に掲載

遺跡名	調査	立会	小計	遺跡名	調査	立会	小計	遺跡名	調査	立会	小計
嶋上郡衙跡	10	7	17	富田遺跡		2	2	安満遺跡	4	1	5
郡家本町遺跡	1	1	2	ミクリ遺跡		5	5	天川遺跡		1	1
今城塚古墳	8		8	田能北遺跡	1		1	鷲殿遺跡		1	1
宮田遺跡	1		1	宮之川原遺跡		1	1	合 計	27	32	59
津之江南遺跡		3	3	高槻城跡	2	10	12				

表6 遺跡別調査及び立会件数

2. 埋蔵文化財の調査

□平成20年度の調査(表4～6)

平成20年度の土木工事に伴う埋蔵文化財調査の届出件数は繰越分を含めて67件で、このうち13遺跡について、発掘調査27件(現状変更15件を含む)、工事立会32件をそれぞれ実施した。

嶋上郡衙跡は発掘調査が10件と最も多いが、これには現状変更に伴う調査7件を含んでおり、そのほかの工事立会い7件は個人住宅建設に伴うものである。

高槻城跡では、個人住宅建設に伴う工事立会等が多くおこなわれたが、このうち高山右近ゆかりのキリシタン墓地として認識される木棺墓群に東接する地点で実施した2008-1調査では、西側に向かって下降する斜面が検出された。この斜面は盛土による土塁の西斜面の可能性も指摘され、キリシタン墓地の東側を区画する機能をもつものと想定された。この想定に基づくとキリシタン墓地の東西幅は約40mとなる。また斜面下半では平坦な整地層、その上層には杭や裏込めの盛土による土留めの状況がみられ、墓地の廃絶期の状況がうかがわれる。(『高槻市文化財調査概要36 嶋上遺跡群33』参照)

史跡今城塚古墳については、第5次整備工事に先立つ事前確認調査を含む、整備事業に付随する調査を実施した。

安満遺跡では、京都大学大学院農学研究科附属農場内の遺構分布状況を把握するため、京都大学の協力を得て確認調査を実施した。調査に先立って実施した地中レーダー探査により、昭和43年に調査された環濠の東南延長部分で数本の溝状遺構が平行して掘削されている状況がうかがわれたため、これを参考に2個所の調査区を設定した。調査の結果、弥生時代前期に属する内側環濠の延長とみられる溝1(幅3m)、および外側環濠とみられる溝3(幅2.5m)のほか、これらが埋没した後に営まれた弥生時代中期の土坑や柱穴を検出し

た。2重の環濠については、出土土器の時期差から内側環濠が先行して掘削され、それが埋没した後に外側環濠が新たに掘削された可能性もできた。

環濠からは多量の弥生土器、漆塗りの櫛、木製鍬の破損品等が出土し、包含層からは中期の土器をはじめ、二上山サヌカイト製石鍬や石錐、近江高島石製の穂摘み具、阿波産紅簾片岩製玉鋸などが出土した。とくに漆塗りの櫛は「結菌式」と呼ばれる縦櫛で、木製または竹製の櫛菌を束ねて黒漆で固め、朱漆で仕上げ、全長は9.5cmに復元できる。(『安満遺跡 — 平成20年度確認調査速報 —』参照)

3. 文化財資料等の刊行

- ・『第11回企画展リーフレット

永井家文書の世界』

- ・『開館5周年記念特別展図録

撰津三島の遺宝 — 考古資料精選 —』

- ・文化財公開施設普及啓発用パンフレット

- ・『第13回企画展リーフレット 郡家村の歴史』

- ・『開館3周年記念特別展図録

永井家十三代と高槻藩』(再販)

- ・『高槻市文化財調査報告書第26冊

芥川村文禄検地帳』

- ・『春季特別展図録 おおさかのおもちゃ

— 紙と土の郷土玩具たち —』

- ・『安満遺跡 — 平成20年度確認調査速報 —』

- ・『高槻市文化財調査概要36 嶋上遺跡群33』

- ・『高槻市文化財調査報告書第27冊

史跡關鷄山古墳確認調査報告書』

- ・『高槻市文化財地図 — 改訂版 —』

- ・『古代の匠に挑戦! 石棺復元体験の手引き

— 阿蘇ピンク石編 —』

- ・『平成18～20年度埋蔵文化財保存活用整備

事業 古代の匠に挑戦!』

II 文化財の保護及び保存

1. 高槻市文化財保護審議会

・委員の選出

任期：平成20年5月8日～平成22年5月7日

文化財保護審議会委員

	氏名	専門
委員長	川上 貢	建造物
副委員長	井藤 徹	学識経験
委員	井上 正	美術工芸
委員	鈴木 登	天然記念物
委員	原 泰根	民俗文化財
委員	原口 正三	埋蔵文化財
委員	脇田 修	古文書

・第1回：7月29日

- ①平成20年度事業について
- ②しろあと歴史館企画展・特別展について
- ③芥川村文禄検地帳について
- ④(仮称)今城塚古代歴史館について
- ⑤その他

・第2回：平成21年2月25日

- ①平成20年度事業経過報告及び平成21年度事業方針(案)について
- ②高槻市指定有形文化財の指定について(諮問)
- ③しろあと歴史館企画展・特別展について
- ③安満遺跡の確認調査について
- ④その他

2. 高槻市史跡整備指導検討会

・第1回：平成21年3月24日

- ①史跡鬮鷄山古墳確認調査報告
- ②史跡鬮鷄山古墳石槨内現況解析報告
- ③史跡今城塚古墳整備について
- ④その他

高槻市史跡整備指導検討会委員

	氏名	所属等
座長	和田 晴吾	立命館大学文学部
委員	水野 正好	大阪府文化財センター
委員	原口 正三	高槻市文化財保護審議会委員
委員	和田 萃	京都教育大学名誉教授
委員	肥塚 隆保	奈良文化財研究所
委員	増渕 徹	京都橘大学文学部
委員	岸本 直文	大阪市立大学大学院

3. 安満遺跡調査指導検討会

・第1回：5月28日

- ①確認調査計画について

・第2回：11月26日

- ①地中探査・ボーリング調査成果について
- ②確認調査計画について

・第3回：平成21年3月17日

- ①平成20年度調査の結果について
- ②平成21年度調査について

安満遺跡調査指導検討会委員

	氏名	所属等
座長	工楽 善通	大阪府立狭山池博物館
委員	井藤 徹	高槻市文化財保護審議会委員
委員	福永 伸哉	大阪大学大学院文学研究科

4. 史跡今城塚古墳保存整備事業

□事前確認調査

史跡整備の基礎データを集積するため実施。内堤南西隅部では近世以降の内濠水田化に伴うとみられる溝を検出。溝側面の観察では、標高24.46mで築造時の旧表土を確認したほか、その直下に厚さ0.2～0.3mの盛土が3層認められた。北側内堤では、内堤上面の南北両側に円筒埴輪列が遺存し、

南北埴輪列の心の間距離は14.5mを測る。また内堤の盛土は旧表土(標高25.46m)上にはほぼ水平に積み、現況で約1.7m高さまで確認できた。北側外濠では旧耕作土下1mで、北側にやや下降するほぼ平坦な底部を確認した。

調査期間：平成21年3月2日～3月31日

□第5次整備工事

地下遺構を保存しつつ緑豊かな史跡公園として活用するため、引き続き整備工事をおこなった。今年度は、前方部南半の内堤と内濠・外濠の一部を復元するとともに、埴輪祭祀場へ設置する復元形象埴輪を製作した。

工期：9月29日～平成21年7月31日

□復元柵形埴輪製作体験

整備事業の普及啓発活動の一環として、今年度製作する復元柵形埴輪40点について、市民参加で実施した。市広報にて公募した市民50人が参加し、技術者の指導を得ながら整形～仕上げ作業の工程を体験した。

実施日：12月12・13日



□ガイダンス施設

昨年度策定した基本設計書に基づき「(仮称)今城塚古墳古代歴史館古代歴史館建築実施設計図書・同展示実施設計書」を作成した。

5. 史跡關鷄山古墳保存整備事業

史跡整備の基礎データを集積するために実施した1次～6次の確認調査結果を取りまとめ、報告書を刊行した。また引き続き保存環境調査を実施したほか、石槨内環境解析をおこない、主体部の保存と公開の手法を検討した。

6. 史跡の土地の買上げ

史跡保存のため、嶋上郡衙跡の土地の買上げをおこなった。平成20年度末における公有化状況は次表のとおりである。

史跡名	20年度累計面積	公有化率
嶋上郡衙跡附寺跡	34,381.25 m ²	35.0%
安満遺跡	21,703.22 m ²	33.5%
今城塚古墳	84,453.67 m ²	99.1%
關鷄山古墳	19,962.93 m ²	96.1%

7. 出土遺物保存処理

出土木製品の恒久的保存を図るため、保存処理をおこなった。

- ・史跡今城塚古墳出土鉄製品(馬具・刀装具等59点) 樹脂含浸による保存処理

8. 収蔵・管理

□展示・保存環境調査報告

国指定文化財の展示公開が可能な公開承認施設として認定を受けるため、しるあと歴史館の環境調査結果(温度・湿度・偏苛度)を毎月1回、独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所に報告し、あわせて指導を受けた。

また、空気環境測定試薬「パッシブインジゲータ」により、収蔵室等の空気環境の簡易測定を実施した。

□収蔵品の燻蒸

収蔵文化財の殺虫・殺カビのため、燻蒸を実施した。

・しろあと歴史館

実施日：12月7日～10日

薬 剤：エキヒューム S

対 象：新規寄贈及び寄託文化財、古文書、
美術工芸品、民具、版本、書籍

・歴史民俗資料館収蔵庫

実施日：平成21年2月26日

薬 剤：ミラクン GX

対 象：民具、雛祭道具等の民俗文化財

・大冠小学校内民具収蔵室

実施日：平成21年3月22日

薬 剤：ミラクン GX

対 象：農具・建材等大型の民俗文化財

□収蔵品の修繕

・物件名：「脇指 銘 備州住宗久」 1点

期 間：平成21年1月22日～3月26日

内 容：刀身研磨による傷、錆、油の除去
刀身保存用の白鞘作成
拵の保存・展示用のつなぎ作成
(詳細は本書3-Ⅲ 参照)

9. 文化財の寄贈・寄託

□掘り起こし調査に伴う寄贈・寄託

掘り起こし調査によって、市民等から寄贈・寄託された物件は、以下のとおりである。

寄贈物件 62件 327点

主な寄贈物件

・古曾部焼等陶器資料

古曾部焼をはじめとして、天坊幸彦ゆかりの
摂津富田焼、島本町の桜井焼等、近世末期から
近代にかけての北摂地域の陶芸資料。4件58点

・槍 銘 下坂兼先 附黒漆槍拵

高槻藩士所用の江戸時代の槍。下坂派は室町時代後期に近江国で興り、全国に分派した。兼先は同名が数代にわたって活躍している。他にも同銘の藩士所用の槍が複数確認されており、藩の標準装備であった可能性がある。

・西五百住実行組合文書 48件65点

旧西五百住村の土地関係の文書が中心。最も古い資料は寛永6年(1629)の検地帳である。

寄託物件 28件 410点

主な寄託物件：

・野見神社及び永井神社所蔵資料

高槻藩主永井家初代・直清に関する武具等の資料。大坂夏の陣で着用した甲冑や、後西天皇より拝領した備前景秀の太刀、采配、印鑑等。

21件103点

・永井直寛の書

高槻藩永井家第10代藩主直与の子・直寛の書。軸装。

10. 登録文化財の登録

檜田地区中畑の古畑家住宅(主屋含め8棟)が「国土の歴史的景観に寄与している」等の基準により登録を受けた。登録告示：7月23日

11. 指定文化財への修理助成

・普門寺方丈および庭園(重要文化財・名勝)

平成19・20年度の2ヶ年事業として実施された国指定文化財の保存修理事業に対し、所有者負担金の一部を補助した。本書1-Ⅱ-11 参照

Ⅲ 文化財の普及啓発及び活用

1. しろあと歴史館

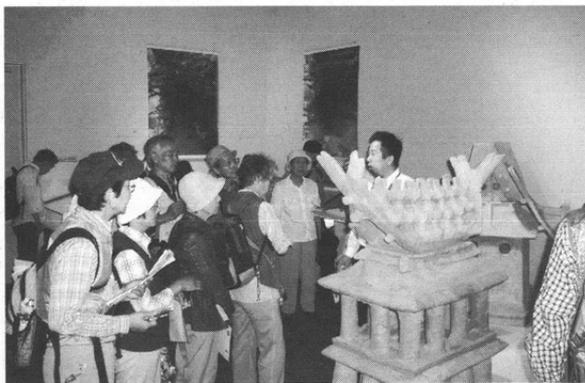
□特別展

・高槻市市制施行65周年記念・しろあと歴史館
開館5周年記念特別展「摂津三島の遺宝－考古
資料精選－」

会 期：9月27日～11月24日 51日間

観覧者数：3,362人

概 要：摂津三島地域は、淀川と陸の大動脈・
山陽道(今の西国街道)という二大交通路を擁
する。日本の東西を結ぶ文化・経済の回廊とし
て日本史上に大きな役割を果たし、古代の日本
を語るうえで特筆すべき歴史遺産は数多い。本
展では、開館5周年を記念し、国宝・重要文化
財などの里帰りや初公開を含む考古資料を一堂
に展覧し。古代三島の豊かな歴史を紹介した。



展示品：「石川年足墓誌」(国宝・個人蔵〔大阪
歴史博物館寄託])、「三彩有蓋壺」〔太田廃寺舎

利容器〕(共に重要文化財・東京国立博物館蔵)、
安満宮山古墳出土銅鏡・東奈良遺跡出土鑄造関
係遺物(共に重要文化財・国〔文化庁保管])、
郡家今城遺跡出土旧石器(大阪府指定文化財)、
土室石塚古墳出土銅鏡(個人蔵・大阪府指定文
化財)、天神山遺跡出土銅鐸(東京大学駒場博
物館蔵)など 95件390点

・春季特別展「おおさかのおもちゃ

－紙と土の郷土玩具たち－

会 期：平成21年3月20日～5月17日50日間

観覧者数：3,198人

概 要：大阪張子は、江戸時代初期の俳諧書『毛
吹草』で諸国名物のひとつに数えられるほど有
名である。また、玩具絵師・川崎巨泉らは郷土
玩具を描き、人々に愛された。これらのおもちゃ
の郷土玩具は寺社の縁起物や土産物として親し
まれ、現在も脈々と伝えられている。

本展では、当館コレクションを中心に、画集
やおもちゃ絵などの関連資料も含め一堂に会
し、その歴史をたどるとともに、紙や土などで
作られた素朴な味わいをもち、人々の生活に息
づいた大阪の郷土玩具の魅力を紹介した。

展示品：虎・虎乗り和藤内・達磨など各種大
阪張子(大阪歴史博物館蔵・館蔵)、勝間凧(大
阪城天守閣蔵・館蔵)、住吉土人形、堺土人形、
大阪府下の寺社の授与品、『張人形諸類控』(大
阪歴史博物館蔵)など 69件242点

□企画展

・第11回企画展「永井家文書の世界

－江戸幕府と永井直清－

会 期：4月26日～6月15日 44日間

観覧者数：2,392人

概要：「永井家文書」は、幕府から高槻藩永井家の藩祖である永井直清に宛てられた膨大な量の武家文書で、江戸時代初期における幕府老中の公文書をはじめ、幕府重臣や儒者、大奥などからの私信をまとめたものとして著名である。永井直清は、江戸幕府から多大な信頼を得た譜代大名で上方統治に手腕を発揮し、慶安2年(1649)に高槻城に入城し、高槻の礎を築いた。本展では、「永井家文書」(奈良教育大学所蔵)を一堂に展示し、当時の畿内・西国支配の中核的地位にあった直清の事績を紹介した。

展示品：江戸幕府老中連署奉書、酒井忠勝書状、元和三年高槻城普請奉行名写(以上永井家文書・奈良教育大学蔵)、永井直清公御在所城州神足之図(仏日寺蔵)、伊予札黒糸威胴丸具足・太刀「銘 景秀」(共に永井直清所用・野見神社蔵)など 37件37点

・第12回企画展「夏休み かっちゅう大図鑑」

会期：7月12日～8月24日 38日間

観覧者数：2,055人

概要：甲冑は実用品としてだけでなく、権力や家格の象徴としての役割があった。本展では、小中学生にも親しみやすい展示を目指し、しろあと歴史館を丸ごと甲冑の「大図鑑」とみためた。古墳から出土した古代の甲冑をはじめ、実戦用や儀式用、高槻藩ゆかりのもの等さまざまな種類の甲冑を展示。また、1領の甲冑を分解展示して甲冑の構造をわかりやすく紹介した。



展示品：私市円山古墳出土短甲・衝角付冑(京都府指定文化財・綾部市教育委員会蔵)、紺糸威茶皴革包五枚胴具足(兜銘 明珍大隈守宗介・個人蔵) 赤糸威肩白二枚胴具足(高槻藩士所用・個人蔵)、紫糸威腹巻(伝薩摩藩主島津忠義所用)、紺裾濃鎧など 17件17点(領)

・第13回企画展「郡家村の世界

—シリーズ高槻の村と町—

会期：平成21年1月4日～2月22日 43日間
観覧者数：3,084人

概要：郡家村は、市内のほぼ中央部を南流する芥川中流域の西岸に位置し、今城塚古墳や嶋上郡衙跡など高槻の古代史をいろいろ重要な遺跡が存在し、「郡家」の地名が嶋上郡衙に由来するなど、古代以来の豊かな歴史をもつ地域である。村には代々受け継がれてきた「郡家区有文書」があり、ここには中世において真上村との農業用水をめぐる争いを解決した三好長慶の裁許状が残っており、「郡家惣中」という村を示す古い文言がみられるほか、近世に起こった周辺の村々と水利や山林の権利をめぐる争いなどの様子もうかがえる。本展では、遺跡の出土品や村にのこる古文書、絵図、絵馬などの資料や年中行事などの写真をつうじ、北摂の農村の風景とその歴史や特色を紹介した。

展示品：今城塚古墳出土埴輪、「三好長慶水論裁許状・同絵図」(高槻市指定文化財・郡家財産区蔵)、「郡家村文禄検地帳」「年貢割付状」「虻山山論絵図」(以上郡家財産区蔵)、「神郡社境内図」(素盞鳴尊神社蔵)、「妙圓寺境内図」(妙圓寺蔵)、「久安寺境内図」(久安寺蔵)など 57件57点

□分館(歴史民俗資料館)企画展

・「ちょっと昔の農具たち」

会期：4月1日～平成21年3月31日

□講座

・第11回企画展連続講座

「譜代大名 永井家の歴史」

①5月31日「山城・淀藩と美濃・加納藩の永井家」

講師：常松隆嗣氏（関西大学非常勤講師）

②6月7日「大和・新庄藩の永井家」

講師：田中慶治氏（葛城市歴史博物館主査・学芸員）

③6月14日「永井家文書へのいざない」

講師：西本 幸嗣（しろあと歴史館学芸員）

参加者数：243人（全3回）

・第9回学芸員講座「甲冑の見方・楽しみ方」

8月19日

講師：千田康治（同上）

参加者数：40人

・しろあと歴史館開館5周年記念講演会

「摂津三島の古代に挑む」

10月4日

「摂津三島の発掘がもたらしたもの」

講師：水野正好氏

（財団法人大阪府文化財センター理事長）

「摂津三島の弥生社会

～なぜ銅鐸がつくられたのか」

講師：奥井哲秀氏（茨木市立文化財資料館館長）

「古代淀川の水運をみつめて」

講師：森田克行（しろあと歴史館館長）

鼎談「摂津三島の古代に挑む」

水野正好氏、奥井哲秀氏、森田克行

参加者数：463人



・しろあと歴史館開館5周年 大阪医科大学歴史資料館開館1周年記念「しろあと歴史ウォーク & ミニ講演会 高槻まると歴史探訪」

10月11日

場所：しろあと歴史館、大阪医科大学歴史資料館など

参加者数：84人



・第10回学芸員講座「戦国時代の城館

— 分布からわかる特徴と地域性 —」

12月17日

講師：早川 圭

（埋蔵文化財調査センター学芸員）

参加者数：64人

・第11回学芸員講座「古代の郡家

— 今城塚古墳と嶋上郡衙 —」

平成21年1月30日

講師：宮崎康雄（同センター主査）

参加者数：67人

・第12回学芸員講座「古文書に見る郡家村」

平成21年2月6日

講師：井坂武男（しろあと歴史館専門員）

参加者数：113人

・第8回館長講座「城を造る

— 城郭普請にみる近世土木技術の幕開け —」

①平成21年2月14日「近世城郭を下支えした石垣桐木組—旧二条城からはじまり、全国へ—」

②平成21年2月21日「杵工法護岸施設の展開

— 大坂城・狭山池・高槻城 —

講 師：森田克行(しろあと歴史館館長)

参加者数：175人(全2回)

・連続講座「西国巡礼の旅Ⅰ

— 観音信仰とそのところ —

①平成21年3月1日「西国巡礼の歴史と展開」

講 師：白木利幸氏(巡礼研究家)

②平成21年3月15日「観音信仰と西国巡礼」

講 師：西本幸嗣(しろあと歴史館主査)

③平成21年3月29日「西国札所の観音菩薩像」

講 師：井上一稔氏(同志社大学文学部教授)

参加者数：311人(全3回)

・文化財鑑賞講座「シリーズ古美術品を楽しむ」

①平成21年3月13日「和時計と江戸時代の科学」

講 師：澤田 平氏

参加者：46人



②平成21年3月27日「日中水墨画の1200年

— その歩みと見どころ —

講 師：竹浪 遠氏

(財団法人黒川古文化研究所研究員)

参加者：25人

・春季特別展記念講演会

「なにわの賑わいと郷土玩具」

平成21年3月28日

基調講演「なにわの賑わい

～大阪の年中行事と祭り～

講 師：澤井浩一氏(大阪歴史博物館学芸員)

関連報告「大阪の郷土玩具

～庶民信仰と授与品～

講 師：西本幸嗣(しろあと歴史館主査)

発表交流・質疑応答

「大阪の郷土玩具をめぐって」

講 師：澤井浩一氏、西本幸嗣

参加者数：24人

□教 室

・綿ものがたり－綿づくりと織り体験教室

①6月7日 ②7月26日 ③8月30日

④10月11日 ⑤11月8日

講 師：①、③～⑤西本幸嗣

(しろあと歴史館主査)

②李熙連伊氏

(八尾市立歴史民俗資料館学芸員)

参加者：64人(全5回)

・甲冑づくり教室

①7月26日 ②8月2日 ③8月9日

講 師：千田康治(しろあと歴史館学芸員)

参加者：58人(全3回)

・体験教室 大阪の土メンコ作り教室

平成21年3月21・28日

講 師：川村紀子氏

(財団法人大阪市文化財協会学芸員)

姫路真保氏(同上 調査補助員)

参加者：20人



・藍染の不思議に迫る

平成21年3月14日

講師：牛田智氏

(武庫川女子大学生活環境学部教授)

参加者：24人(全3回)

2. 文化財ボランティア

「歴史遺産を活かしたまちづくり」の一環として、市民も含めた積極的な文化財普及活動を進め、地域に根ざした文化財の保護・啓発に協働することを通じて、郷土の歴史・文化に対する市民の理解と愛護意識の向上をはかる。これらを実践するため、市民ボランティアを文化財スタッフとして育成しつつ、協働事業を実施した。

□文化財スタッフの活動

・文化財スタッフ実習・研修

より高度かつ実践的な知識・技能を習得し、レベルアップを図るため、実習・研修を実施した。

① 4月24日～25日・7月10～11日・12月25日～26日「企画展研修」

② 6月15日・8月17日・12月21日・1月25日「歴史サロン」

③ 9月6日「市外研修」

④ 9月25日～26日・3月18日～19日、「特別展研修」

⑤ 10月8日「歴史ウォーク研修」

・しろあと歴史館常設展示案内ガイド

案内した来館者 1,522人

・サポート活動

① 4月・5月 埋蔵文化財調査センターの小学生向け展示ガイド(21校1,745人)

② 4月5月 巻物づくりワークショップ

③ 5月31日・6月1日 第14回ハニワづくりとスケッチ・ぬりえ大会

④ 11月23日 淀川三十石船舟唄全国大会

⑤ 11月27日 高槻城跡周辺清掃

⑥ 平成21年2月22日 安満遺跡確認調査

現地説明会

3. 第16回淀川三十石船舟唄全国大会

大阪府指定無形民俗文化財「淀川三十石船船唄」の継承、普及、発展を図るため第16回全国大会を実施した。

日程：11月23日

会場：現代劇場中ホール

出場者：223人(ジュニアの部25人)

入場者：600人

主催：淀川三十石船舟唄全国大会実行委員会

4. ハニワづくりとスケッチ・ぬり絵大会

第14回大会を史跡新池ハニワ工場公園にて開催

大会日程：5月31日・6月1日

参加者数：543人

作品展示：7月23日～27日(ジャスコシティ高槻スタジアムコート)

5. 石棺復元体験イベント「古代の匠に挑戦！」

史跡今城塚古墳から出土している3種類の石棺を、毎年1基ずつ市民参加を得て復元し、古代の技術を体験しようとするもので、3年目の今回は熊本県阿蘇ピンク石製刳抜式家形石棺の復元に取り組んだ。和田晴吾氏(立命館大学教授)の指導のもと、長さ260cm、幅130cm、棺蓋の厚さ60cm、棺身の高さ100cm(復元重量約7.8t)の復元設計図を作り、これを基に熊本県宇土市馬門地区の石切り場で石材を切り出し、粗く加工したのち、市民参加の復元体験会場の今城塚古墳に搬入した。阿蘇ピンク石は比較的やわらかい石材なので、ビシヤンで凹凸をならした後、コタタキで工具痕をつけながら表面を平らに仕上げる手法で実施した。(図版第1b参照)

平成18年度から3ヵ年にわたる取り組みで復元された3基の石棺は、平成22年度完成予定の(仮称)今城塚古代歴史館に収蔵展示される予定である。

実施日：平成21年1月14～22日の5日間

参加者：145人(延べ)

また、阿蘇ピンク石に関する知識を深め、石棺復元体験に生かすことができるように、滋賀県野洲市歴史民俗博物館と国史跡甲山古墳・円山古墳を訪れる現地学習会を実施した。

実施日：12月19日

参加者数：21人

6. 歴史講座

文化財の普及・啓発を促進するため、生涯学習センターと共催で『けやきの森市民大学 歴史講座』を開催した。講師は、外部講師2名のほか、しろあと歴史館および埋蔵文化財調査センターの職員が務めた。

・「城と城下町をゆく ― 天下統一と高槻」

①5月15日「ここまでわかった城と城下」

講師：千田嘉博氏(奈良大学文学部教授)

②5月22日「戦国動乱 近畿の城とまち」

講師：中西裕樹

③「元和偃武と譜代大名の城」

講師：西本幸嗣

④「天下人の城と城下町」

講師：中井 均(NPO 法人城郭遺産による街づくり協議会理事長)

受講者総数：408人

・「高槻の歴史Ⅱ - 考古学最新情報 -」

①11月6日「弥生ムラとモノづくり」

講師：宮崎康雄

②11月13日「古墳を発掘する」

講師：高橋公一

③11月20日「芥川山城とその時代」

講師：早川 圭

④11月27日「中世の淀川と物資流通」

講師：橋本久和

受講者総数：442人

7. 現地説明会

□安満遺跡確認調査

日程：平成21年2月22日

参加者：322人

8. 研修等の受け入れ及び講師の派遣

各機関や団体の依頼に基づき、研修等を受け入れ、講師を派遣した

- ・財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所 カンボジア アンコール地域遺跡保護整備局からの招聘者3名の研修(12月9日 史跡新池地輪製作遺跡)



- ・第11回阿武野中学校区地域教育集会公開授業(12月19日 阿武野中学校)
- ・平成20年度社会科研究会中学社会科部会研修(平成21年1月14日 埋蔵文化財調査センター)

9. 施設見学会の受け入れ

市広報広聴室市民相談センターによる一般市民を対象とした施設見学会を受け入れた。

しろあと歴史館3件

10. 小中学校等の受け入れ

小中学校等からの協力依頼に基づき体験学習等を受け入れた。

□職業体験学習

埋蔵文化財調査センター：第九中学校・第十中学校・第二中学校

計 3校 延べ4日・18人

しろあと歴史館：阿武山中学校・冠中学校・川西
中学校・芝谷中学校・城南中学校・第一中学校・
第二中学校・第三中学校・第八中学校

計 9校 延べ16日・32人

府立茨木支援学校 計1校 延べ1日・2人

□総合的な学習

埋蔵文化財調査センター：第二中学校

計 1校 延べ1日・6人

□「高槻の歴史を探ろうフィールドワーク」

埋蔵文化財調査センター：北日吉台小学校

計 1校 延べ1日・24人

11. 新任教員の社会体験活動研修の受け入れ

異職種の実験を通じて、資質及び能力の向上を
はかる研修の一環として新任教員を受け入れ、文
化財の普及・啓発活動の研修を実施した。

・埋蔵文化財調査センター

実施日：8月7・8日

3人(西大冠小、津之江小、第九中)

・しろあと歴史館

実施日：8月7・8日

7人(高槻小、五領小、柱本小、松原小、
如是中)

12. 維持・管理

□「歴史の散歩路」整備

・新設：説明板1基、標柱2本、簡易標柱2本

・補修：標柱28本、簡易標柱9本

□史跡新池ハニワ工場公園

20年度は18号埴輪窯露出展示の防カビ処理(ほ
ぼ2年に1回実施)のほか、緑辺部が経年劣化し
た3号工房遺構表示の土壌硬化舗装の修復等を
実施した。

・ハニワ工場館内18号窯の防カビ処理

・復元工房および3号工房の遺構説明板陶板取替
修繕(合計2基)

・3号工房遺構表示舗装の補修

13. 文化財の活用

□図書を受納 2,605冊(歴史館185冊

埋文センター2,420冊)

□掲載許可・貸出 69件267点

[歴史館17件73点(写真30点 資史料43点)

埋文センター48件190点(写真161点遺物29点
文化財チーム4件4点)]

14. 文化財公開施設の利用状況

・しろあと歴史館 28,615人

・(分館)歴史民俗資料館 18,500人

・埋蔵文化財調査センター 2,720人

・史跡新池ハニワ工場公園 14,187人

・青龍三年の丘(安満宮山古墳) 3,127人

3 報 告

I 全国巡回展「絵でみる考古学 —早川和子原画展—」について

中西 裕 樹

早川和子氏は、「考古イラストレーター」である。これまで日本各地の発掘調査現場を取材し、その時代時代に生きた人びとの暮らしぶりを端正な筆致で再現してきた。その復元画には、人々の喜怒哀楽の表情に加え、四季の美しさまでもが織り込まれている。その情感あふれる繊細な作風は、遺跡の内容をわかりやすく伝え、多くの歴史ファンを魅了している。

早川氏は、宮崎県出身。「天才バカボン」や「ギャートルズ」などテレビアニメーション制作にかかわった後、京都府埋蔵文化財調査研究センターで上人ヶ平遺跡(京都府木津川市)の発掘の仕事に参加された。氏の復元画には、この本物に関わってきたキャリアが遺憾なく発揮されている。知己の考古学者も多く、その取材を通じ、復元画は常に最新の学術成果を盛り込んだ完成度の高い内容となる。

本市においても、新池埴輪製作遺跡や芥川遺跡などの復元画製作を氏に依頼し、史跡整備や市民向けのリーフレット、展示などでの活用を図ってきた。しかし、早川氏の作品は遺跡や自治体ごと

での公開にとどまり、作品が一堂に展示される機会はこれまでに無かった。そこで、より多くの人に復元画が発信する歴史の姿を伝えようと、全国の歴史博物館や埋蔵文化財関係者らが平成19年3月に実行委員会を立ち上げ、2年間にわたって開催したのがこの全国巡回展である。

実行委員会では、森田克行前高槻市立しろあと歴史館長(現高槻市教育委員会教育指導部地域教育室長)が委員長をつとめ、しろあと歴史館が事務局として運営に携わった。この巡回展について、しろあと歴史館での展示を中心に、概要を紹介する。



縄文時代のムラ・芥川遺跡(早川和子氏画)

役員	氏名	所属	役員	氏名	所属
委員長	森田 克行	高槻市立しろあと歴史館	委員	千葉 孝弥	多賀城市埋蔵文化財調査センター
副委員長	藤田 憲司	大阪府立近つ飛鳥博物館	〃	坪井 恒彦	読売新聞大阪本社
委員	稲原 昭嘉	明石市教育委員会	〃	錦織 稔之	島根県立古代出雲歴史博物館
〃	北郷 泰道	宮崎県立西都原考古博物館	〃	平野 卓治	横浜市歴史博物館
〃	小林 公治	九州国立博物館	監事	福岡 澄男	大阪府文化財センター
〃	杉山 洋	奈良文化財研究所飛鳥資料館	〃	山本 三郎	兵庫県立考古博物館
〃	立石 堅志	平城遷都1300年記念事業協会	会計	鐘ヶ江 一朗	高槻市立埋蔵文化財調査センター
〃	近澤 豊明	綾部市資料館	書記	石井 清司	京都府埋蔵文化財調査研究センター
事務局：高槻市立しろあと歴史館					

早川和子原画展実行委員会の構成(※所属は当時)

展示名称	全国巡回展 絵でみる考古学 一早川和子原画展—〔文化庁、読売新聞大阪本社後援〕			
展示期間	平成19年7月14日～平成20年12月14日			
	展示会場	展示期間	展示日数	観覧者数
①	大阪府立近つ飛鳥資料館	平成19年7月14日～9月2日	44日	4,704人
②	綾部市資料館	平成19年9月15日～10月21日	36	3,085
③	明石市立文化博物館	平成19年11月10日～12月9日	26	1,310
④	宮崎県立西都原考古博物館	平成19年12月15日～平成20年2月3日	37	8,939
⑤	奈良文化財研究所飛鳥資料館	平成20年2月9日～3月2日	20	1,691
⑥	高槻市立しろあと歴史館	平成20年3月8日～3月30日	19	2,197
⑦	横浜市立歴史博物館	平成20年4月5日～5月18日	42	22,890
⑧	鳥根県立古代出雲歴史博物館	平成20年5月31日～7月6日	36	17,005
⑨	向日市文化資料館	平成20年7月19日～8月24日	30	2,884
⑩	九州国立博物館	平成20年8月2日～10月13日	38	65,657
⑪	多賀城市埋蔵文化財調査センター	平成20年10月25日～12月14日	44	1,731
11会場の合計			374日	132,093人

全国巡回展の会場と会期、入場者数

巡回展には早川氏から全面的な協力を得て、復元画110点が出品された。描かれた時代は、旧石器時代から江戸時代初期にまで及ぶ。ただし、各館では展示面積が異なるため、それぞれ独自のコンセプトを組み立て、復元画も選択展示することにした。この結果、比較的近隣に所在する博物館同士においても展示内容に変化があり、来館者からは好評を得ることができた。

しろあと歴史館でのコンセプトは、①復元画と画中に描かれている実物資料を併置、②製作過程



しろあと歴史館での展示風景

の紹介、③全国の遺跡を通覧、の3点とした。例えば、新池埴輪製作遺跡を題材とした「埴輪をつくる」では、画中で2人の職人が叱咤を受けながらそろそろと運ぶ円筒埴輪を展示。出土品の整理が進む今城塚古墳では、復元画とともに最新の巫女型や朝顔型などの復元埴輪を公開した。

会場では早川氏や当時の発掘調査担当者のコメントを記したキャプションを適宜設置し、観覧者に現場の生の声を伝えた。実際に使用された絵具や筆、スケッチブック、そして発掘担当者からの細やかな注文が記載された下絵なども展示して完成へといたるプロセスを紹介し、発掘調査と学術研究の上に組み立てられていく復元画の性格を紹介した。

また、三内丸山遺跡や吉野ヶ里遺跡など、各時代を代表する遺跡を中心に復元画を展示した。この合計62点の復元画と21点の実物資料を通じ、高槻の遺跡を学びながら、全国の遺跡と歴史の流れが理解できるよう心がけた。

[関連イベント] 各館では、復元画にまつわる歴史講演会や早川氏を招いたイラスト教室などが数多く開催された。しろあと歴史館では次のようなイベントを実施している。

・秋季記念講演会

「古代の遺跡を復元!～絵で見る考古学」

日時：平成20年3月23日(日)午後1時～3時

会場：高槻市教育会館研修室

参加者数：89人

森田館長の講演「遺跡をメジャーに」に続き、早川氏には「復元画を楽しんでみませんか」と題した講演をお願いした。その後、対談「古代の遺跡を復元!」を交え、復元画に込められた発掘調査現場の声や製作過程について、参加者にもわかりやすく伝えていただいた。

・「ハニワを描こう!春休みイラスト教室」

日時：平成20年3月30日(日)午後1時～3時

会場：しろあと歴史館体験学習室

参加者数：13人

早川氏に直接ご指導いただき、ハニワをモチーフとしたイラストを子どもたちとともに制作した。クレヨンと塗料の溶剤を使用した独特のイラスト技法を披露いただき、関心を呼んだ。

・「古代甲冑づくり教室」

日時：平成20年3月15日(土)・22日(土)

午後1時30分～4時

会場：しろあと歴史館体験学習室

参加者数：延べ68人

市民ボランティアである高槻市文化財スタッフの会の協力を得ながら、古墳時代に使われた甲冑を厚紙と紙ヒモで製作。終了後は、参加者が実際に試着し、互いに写真を撮影するなど好評であった。

[図録] 博物館の展示図録ではなく、より多くの人に復元画を知ってもらおうと、大手出版社の小学館から『よみがえる日本の古代 旧石器～奈良時代の日本がわかる復元画古代史』という書籍を

発行し、図録を兼ねることとした。監修は大阪府立弥生文化博物館館長の金関恕氏にお引き受けいただいた。

内容は、早川氏の復元画を大きく掲載し、各遺跡に精通した研究者が解説を添えた、非常にビジュアルなものである。また、総論として奈良文化財研究所企画調整部長・岡村道雄氏、大阪大学名誉教授・都出比呂志氏、京都大学大学院教授・上原真人氏から論考を賜った(所属等は当時)。

B5版147頁、定価2,000円(税込)で、各展示会場や全国書店で販売した。初刷7,000部は期間内に完売し、急ぎ第2刷を行っている。

[観覧者数] 展示は11館を巡回し、会期延日数は374日である。合計の観覧者数は132,093人であった。全国巡回展としては、文化庁が主催する「発掘された日本列島展」が毎年開催され、最新の発掘調査成果が観覧できる機会として定着している。平成19年度は7館を巡回し総観覧数152,886人、平成20年度は4館を巡回し総観覧者数120,255人が訪れた。この数字には及ばないものの、全くの手作りから始まった本巡回展の観覧者数は、この実績に引けを取らないものと考えている。

[まとめ] 本巡回展の反響は大きく、終了後もコンセプトを引き継いだ展示が愛媛県立歴史文化博物館(平成21年4月25日～6月14日)と鹿児島市立ふるさと考古歴史館(平成21年9月19日～11月29日)で開催されている。

くり返しになるが、本全国巡回展には132,093人もの観覧者を迎え、図録(書籍)も刷を重ねた。復元画が発信する歴史の魅力を多くの人に伝えようという当初の目的は十分に達成されたと考えている。最後になるが関係者・機関、そして早川和子氏にあらためて感謝を申し上げたい。

II 高槻市内の大絵馬について

西本幸嗣

絵馬は、神事に馬を献上したことにはじまる、とされている。奈良・平安時代には、律令祭祀の一環として土製の馬などに人々の願いや祈りが託され、やがて文字どおり馬の絵を描いた「絵馬」に代わるようになった。

中世から近世にかけて、豊作祈願や村内安全など集団祈願を中心とする大型の絵馬(大絵馬)の奉納が主流となるが、しだいに個人の祈りを絵馬に込める習俗が全国的にひろがり、小型の絵馬(小絵馬)が普及していった。

今回、しろあと歴史館企画展「新春絵馬展」(平成20年1月)開催を契機に、市内の寺社で初めて大絵馬の調査を実施した。その結果、20点について記録を作成し、北摂では最古級とみられる江戸時代初頭の「寅」絵馬(本山寺蔵)も確認することができた。

大絵馬は、当時の社会生活・風俗や地域性を反映した画題が描かれることが多い。下表に全件の画題・年紀・所在等を挙げるとともに、地域性が色濃く残る資料について紹介する。

北摂最古級の「寅」絵馬⑱ 【口絵上段 参照】

本山寺は、天台宗に属し、毘沙門天を本尊とする。宝亀5年(774)開成皇子の創建と伝えられ、宝永元年(1704)には5代将軍徳川綱吉の生母・桂昌院の援助で大改修を経た寺院である。

本絵馬は、彩色され、万治3年(1660)の紀年銘をもつ奉納絵馬であり、北摂最古級である。保存状態は良く、額装の金具類も当初のものといえる。

図柄は古来中国や日本の絵画で用いる「寅と竹」である。「寅」は、本尊・毘沙門天にちなむものと考えられ、画面墨書に「井上仁兵衛 敬白」「諸

	画 題	年 紀	法量(縦×横、cm)	所 蔵
①	高槻城絵馬	明治11年(1878)7月	100.2×188.8	野見神社(野見町)
②	日置流弓術大会絵馬	明治36年(1903)10月	47.0×193.9	野見神社(野見町)
③	獅子舞い絵馬	明治28年(1895)10月	77.5×163.0	筑紫津神社(津之江町一丁目)
④	筑紫津神社境内図絵馬	明治28年(1895)10月	73.0×103.0	筑紫津神社(津之江町一丁目)
⑤	「川中島合戦図」絵馬	年未詳	97.5×195.0	春日神社(宮田町三丁目)
⑥	「常磐御前と牛若・乙若」絵馬	弘化3年(1846)11月	98.0×67.0	春日神社(宮田町三丁目)
⑦	「神功皇后と武内宿禰」絵馬	弘化3年(1846)11月	98.0×67.0	春日神社(宮田町三丁目)
⑧	「加藤清正」絵馬	安政5年(1858)9月	62.5×96.0	春日神社(宮田町三丁目)
⑨	「鉞・騎馬武者対戦図」絵馬	明治40年(1907)初秋	92.0×192.5	春日神社(宮田町三丁目)
⑩	「西南戦役合戦図」絵馬	明治11年(1878)10月	92.0×192.5	春日神社(宮田町三丁目)
⑪	富田踊り絵馬	明治20年(1887)1月	120.8×179.2	三輪神社(富田町四丁目)
⑫	「三韓征伐図」絵馬	明治12年(1879)9月	115.0×400.0	阿久刀神社(清福寺町)
⑬	牛絵馬	明治31年(1898)2月	80.7×105.5	上宮天満宮(天神町一丁目)
⑭	神馬絵馬	天保13年(1842)正月	88.9×134.5	上宮天満宮(天神町一丁目)
⑮	天満宮願掛け絵馬	明治16年(1883)3月	64.7×36.8	上宮天満宮(天神町一丁目)
⑯	中国賢人絵馬	慶応3年(1867)9月	38.3×45.4	上宮天満宮(天神町一丁目)
⑰	本山寺参詣絵馬	明治15年(1882)10月	88.3×163.8	本山寺(大字原)
⑱	三島江講中船絵馬	年未詳	84.2×121.9	本山寺(大字原)
⑲	「寅」絵馬	万治3年(1660)正月	76.0×90.7	本山寺(大字原)
⑳	神峯山寺寅講絵馬	年未詳	134.6×96.3	神峯山寺(大字原)

市内寺社所蔵の大絵馬一覧表

願成就、皆令満足／奉掛御寶前」とあり、個人が奉納したものである。

神峯山寺寅講絵馬⑳

神峯山寺は、天台宗に属し、毘沙門天を本尊とし宝亀5年(774)開成皇子の創建と伝えられる。

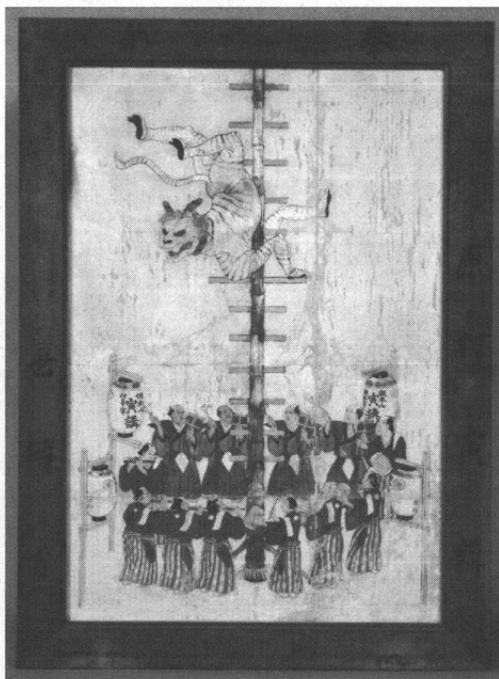
本絵馬は、板に紙貼りしたもので彩色を施している。保存状態は良い。

古くから原地区に伝わる六斎念仏の様子を描く。舞い手は2人で寅の衣装を被り、笛や太鼓などの囃しに合わせて奉納舞いを演じる姿が写実的に描かれている。額装には「奉納／原村寅講／世話方」と墨書される。紀年銘は確認できないが、囃し手の衣装や髪形から、江戸時代の状況を描いたものと推測される。

富田踊り絵馬① 【口絵下段 参照】

三輪神社は、大和国三輪山に鎮座する大神神社を勧請したとされ、かつての普門寺の鎮守社であり富田の産土神ともいわれる。本殿の北に絵馬所を有し、梁上の壁には絵馬や連歌額等が掲げられている。

本絵馬は、明治20年(1887)の明治天皇大阪行幸に際して、2月16日、高槻停車場前で富田村



神峯山寺寅講絵馬⑳

の女性約50人が天皇の御前で踊った富田踊りを描く。この栄誉を記念して、地元で奉納がなされたもの。画面向って右上に天皇の天覧席を描き、中央には歌詞が記されている。

獅子舞い絵馬③と境内図絵馬④

筑紫津神社は、芥川の右岸に位置し、津之江の産土神として鎮座する。

2枚の絵馬は、板に紙貼りしたもので彩色を施し、額に黒漆を塗る。金具は当初のものである。神社境内と秋季例大祭での獅子舞い奉納の様子を描く。境内建物の配置等は現在と同じである。

本殿前で、笛や太鼓などの囃しに合わせて、天狗役を先導に、1頭の獅子が舞う。それを見物する人々のなかには、近代の衣装を象徴するシルクハットの男性も見受けられる。

かつて、津之江には、獅子掛講が組織され、祭礼では講員が舞い手や囃し手を担当した。獅子舞いの祭具一式が神社に納められていたが、現在は伝わっていない。ただ、当時の地域に残る民俗行事を知る上で、貴重な資料といえる。

※本調査にあたって、(財)元興寺文化財研究所彩色資料修復室長山内章、所員木下雅代両氏の協力を得た。

また、口絵写真および本稿掲載写真は櫻井良治氏(サクライスタジオ)の撮影による。



獅子舞い絵馬③ (部分)

Ⅲ 脇指 銘 備州住宗久の修繕及び調査

千田 康治

□経緯

平成15年、しろあと歴史館の掘り起こし調査に際し、市民から「備州住宗久」と銘がある脇指とその拵の寄贈を受けた。寄贈時、刀身には傷や錆が多数あり、また全身にわたって保管用に塗られた油が劣化して凝固しており、地鉄や刃文を確認することができない状態であった。そこで適切に保存し、展示等の公開に活用するために、平成20年度に修繕を実施した。修繕は刀剣研師・尾崎明幸を中心に行われ、概要は以下のとおりである。

- 1 研磨によって刀身の傷、錆、油被膜を除去し、美術工芸品として鑑賞できるように仕上げた。
- 2 保存用の白鞘(朴の木製)の作成。
- 3 拵の保存・展示用のつなぎ(木製の刀身形)の作成。

□概要(図版第2)

修繕後の本脇指の概要は以下のとおりである。

(法量の単位は全て cm)

法量 刃長51.4 反り1.4 元幅(最大幅)3.1
先幅(切先幅)2.2 茎(なかご)長12.8
形状 鑄(しのぎ)造、庵棟、先反りつき、中鋒。
地鉄 板目に空目交じり、大肌となり、肌立つ。
刃文 小沸(こにえ)出来の中直刃。匂い口は締めまり、地鉄にからんで全身に渡りほつれる。
帽子 表裏とも掃き掛ける。
茎 生ぶ。先は刃上がり栗尻。鑢目勝手下。目釘孔1。指表棟よりに「備州住宗久」と銘がある。

附青漆石目地塗脇指拵

法量 総長75.2 鞘長55.5 柄長18.4 鐺径7.6
鞘 青漆石目地塗、小柄櫃有り、切鑢。

柄 白鮫着、黒糸巻。

金具 鐺 唐草文丸型、鉄地、銀銅布目象嵌。

縁頭 唐草文、鉄地、銀布目象嵌。

目貫 鯉図、赤銅、容彫。

小柄 閻魔王図、鉄地、毛彫。

□考察

本脇指は、江戸時代に高槻城下の土橋町で商家を営んだ旧家に伝来した。鑄造で刃長が1尺7寸程、身幅が広すぎず、先反りがついた形状は、典型的な室町時代中期から後期にかけての脇指である。この時代、長寸の太刀や打刀と共に用いる短寸の「指し添え」は、従来の平造短刀から、鑄造脇指へと移行している。刃文は、中直刃の匂い口(刃文の縁)が細かにほつれている。刃中の働きは少ない。日本刀の作風は、五ヶ伝とよばれる5系統に大別されるが、本脇指の刃文は五ヶ伝のうち大和伝の特徴が顕著である。

「備州住宗久」と名乗る刀工は、備前国(岡山県)長船派と備後国(広島県)三原派にいる。三原派は大和伝の作風を得意とし、また茎尻の形状が類似することから同派の刀工に比定できる。活躍時期は、紀年銘などから戦国時代の永正年間(1504~20)頃とみられる。三原派は鎌倉時代末期から桃山時代にかけて活躍した刀工群で、室町時代中期以降多くの刀工を輩出し、この時期の三原派刀工を「末三原」と呼ぶ。

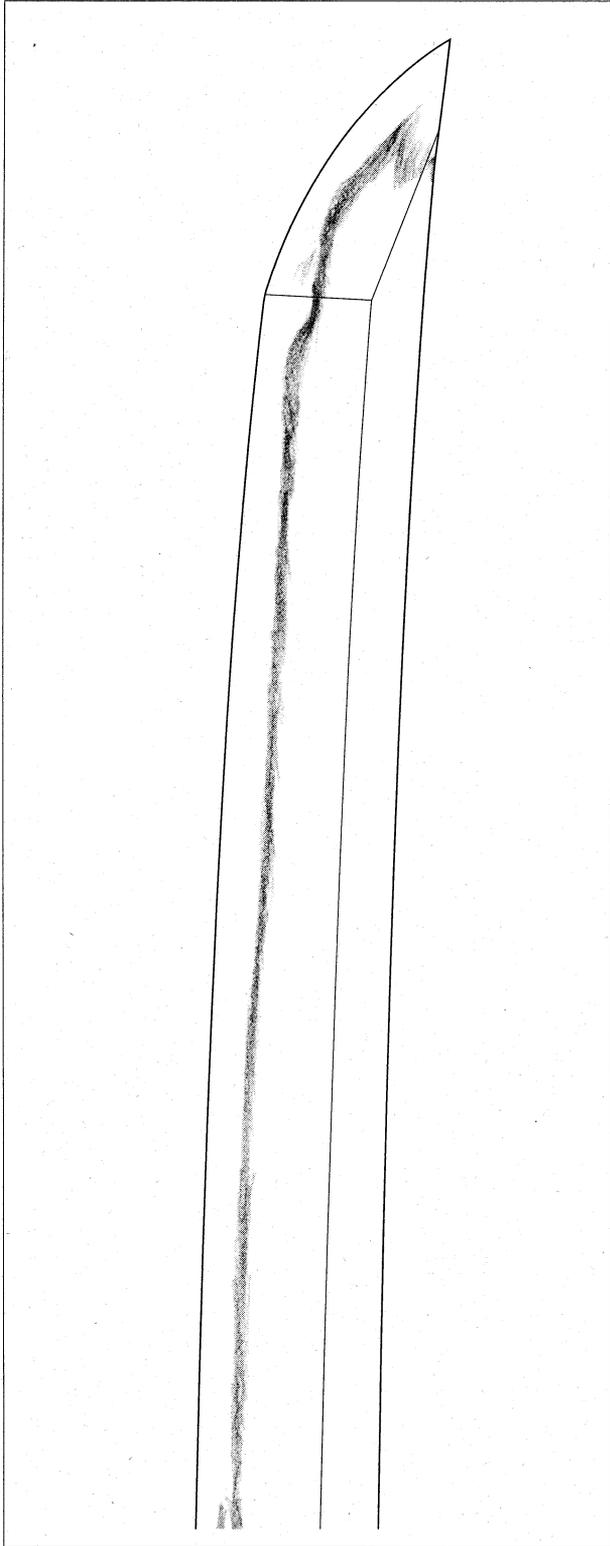
附の脇指拵は江戸時代後期の制作。深緑色の青漆を、目の細かい石目地塗としている。表からは見えない小柄櫃に刷毛目で青海波文様を表す等、上質な漆塗である。損傷しやすい柄糸が良好な状態であるのが貴重である。鞘尻が直線的な切鑢のため、大小二本指ではなく、脇指単独で用いるための拵であり、商家で用いられたとする伝来を肯

定するものである。

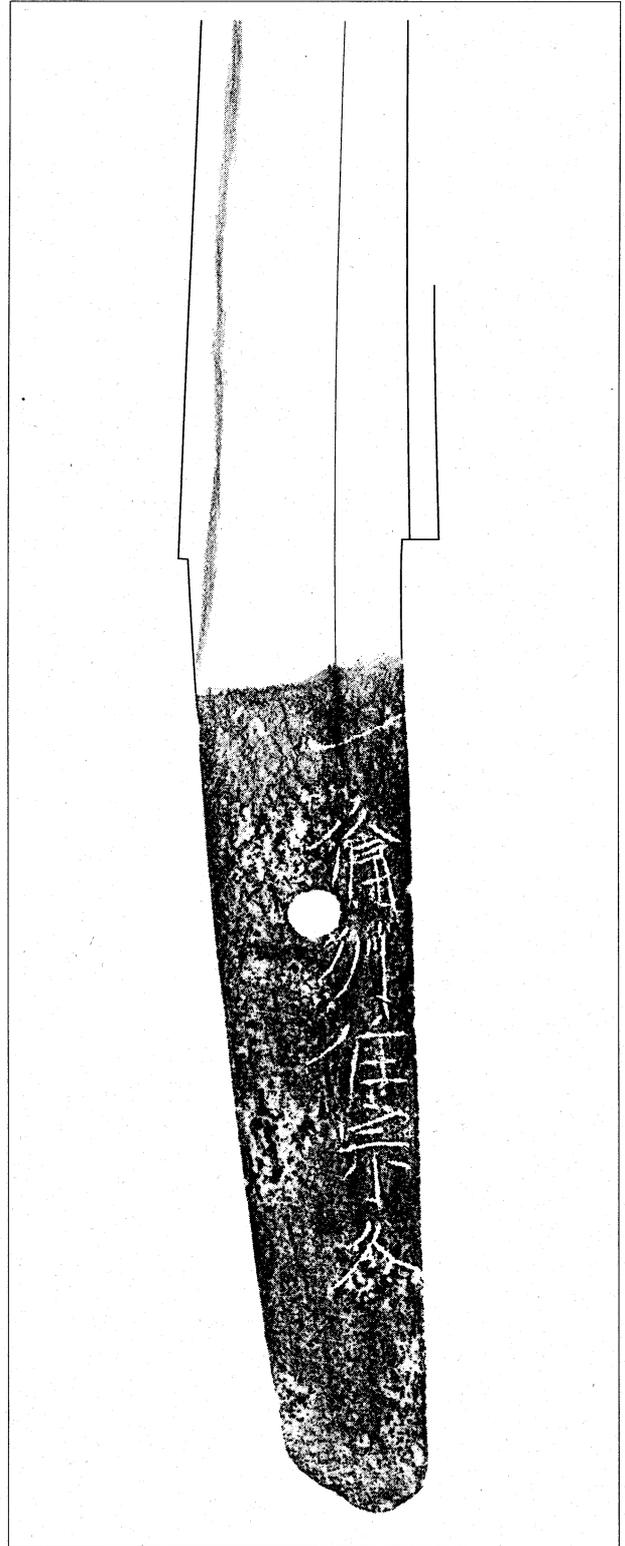
□まとめ

典型的な戦国時代の脇指であり、作者が特定できる資料としても貴重である。また修繕を経て、

美術工芸品としても評価できるようになった。附の脇指拵は伝来が確かであり、高槻城下での生活文化をうかがえる好資料である。



押形(実寸) 切先



茎

4 研究ノート

古代のウとウカイの用字

森田 克行

はじめに

かねてより古代における畿内地域、とりわけ淀川流域の鵜飼儀礼の復元について、考古学的な考察を進めてきた。すでに研究の一端は公表もしてきた⁽¹⁾ところであるが、その過程において、日本列島と中国大陸での鵜飼に関する史料を渉猟した。とはいっても、古代から現在にいたる資料は膨大な量にのぼることから、小稿においては、およそ古代⁽²⁾に限定するなかで、関連文献を収載⁽³⁾し、あわせて彼此のウとウカイの用字について、いささかの整理をおこなうこととした。

1. 文献の集成

集成にあたって、中国では先行研究を参考に小稿の論述に不可欠な史料を中心に10書、日本については、管見の22書をほぼ編纂順に配列し、都合59資料を掲載した。各資料とも、ウとウカイの記述部分を中心に抜き書きしたが、なかにはウ・ウカイから派生した考えられる人名・地名など、直接ウカイに関わらないものも、用例検討の観点から採録した。また、できる限り原文を載せたが、日本の詩歌・物語の類については訓み下し文を掲げた。ただし、ウとウカイの字句が訓み下し文と原文とで異なる場合は、()内に原文の文字を表記した。

中 国

- 1『爾雅』前漢初期（紀元前2世紀前後）〔ウを記録した最古の字典〕
釋鳥：鷓，諸雉
釋鳥：鷓鷀
- 2『説文解字』四篇上 鳥部 許慎撰 永元二年(100)〔ウ字を記し、鳴き声を評す〕
鷓，鷓鷀也 从鳥慮聲
鷓，鷓鷀也 从鳥茲聲
- 3『爾雅注』郭璞 3世紀末～4世紀前半〔ウ字の呼称及び形態的特徴や食性を注釈〕
鷓鷀 鷓鷀也 嘴角曲如鉤食魚
- 4『後漢書』卷六十上 馬融伝 汜曄撰 432年頃〔さまざまな水鳥を表示するなかでのウ字〕
水禽鴻鵠 鴛鴦鷓鷀 鷓鷀鷓鷀 鷓鷀鷓鷀 乃安斯寢 戢翮其涯
- 5『隋書』東夷伝倭国条 魏徵撰636年〔世界最古のウ使い(鵜飼)漁の記録、かつ倭国での事例〕
氣候温暖 草木冬青 土地膏腴 水多陸少 以小環挂鷓鷀項 令入水捕魚 日得百餘頭
- 6『一切経音義』卷二十 玄奘撰 貞観末期(627～650)〔漢語の注釈書で、ウの性状を記す〕
鷓鷀 上郎都反 下才資反 説文水鳥也 蒼頡篇 鷓鷀似鷓而黑也
- 7『後漢書注』馬融伝 李賢 7世紀後半〔ウの生態にかかる伝承記録〕
鷓，鷓鷀也 楊孚異物志云：「能沒於深水 取魚而食之 不生卵而孕雛於池澤間 既胎而又吐生 多者生八九 少生五六 相連而出 若絲緒焉 水鳥而巢高樹之上」
- 8『三絶句』二 杜甫 8世紀〔ウを詠み込んだ詩の一例〕
門外鷓鷀去一作久不來 沙頭忽見眼相猜 自今已後知人意 一日須來一百回

9『清異録』陶穀 10世紀 [中国内でのウカイ漁の實際を記述した最古の文献]

「畜鷓鴣於家」「小舟即納膾場」

10『太平御覽』李昉等撰 977~983年 [降雨祈禱に際して白いうの靈驗を記す]

唐書曰貞元十三年四月上 以自春已來時雨未降正陽之月可行雩 祀遂幸興慶宮龍堂兆庶祈禱忽有白鷓鴣沉浮水際羣類翼從其後 左右侍衛者 咸驚異之俄然莫知所往 方悟竜神之變化 遂相率蹈舞稱慶 至丑果大雨遠近滂沱 於是宰臣等上表陳賀

日 本

11『古事記』国譲り [ウの靈力を表す神話]

獻天御饗之時 禱白而 櫛八玉神化鷓 入海底 咋出底之波迹 此二字以音 作天八十毘良迦此三字 以音 而鎌海布之柄

12『古事記』鷓草葺不合命(1) [ウの靈力を表す神話とウ草葺不合命の誕生]

於是海神之女豊玉毘売命 自參出白之 妾已妊身 今臨産時 此念 天神之御子 不可生海原 故參出到也 爾即於其海辺波限 以鷓羽為葺草 造産殿 於是其産殿 未葺合 不忍御腹之急 故入坐産殿 爾將方産之時 白其日子言 凡他国人者臨産時 以本国之形産生 故 妾今以本身為産 願勿見妾 於是思奇其言 窃伺其方産者 化八尋和迹而 匍匐委蛇 即見驚畏而遁退 爾豊玉毘売命 知其伺見之事 以為心恥 乃生置其御子而白 妾恒通海道欲往来 然伺見吾形 是甚小乍之 即塞海坂而返入 是以 名其所産之御子 謂天津日高日子波限建鷓草葺不合命

13『古事記』鷓草葺不合命(2) [神武天皇の父としてのウ草葺不合命]

是天津日高日子波限建鷓草葺不合命 娶其姨玉依毘売命 生御子名 五瀬命 次稻冰命 次御毛沼命 次若御毛沼命 亦名豊御毛沼命 亦名神倭伊波礼毘古命

14『古事記』神武天皇段(1) [阿陀のウカイ集団]

故隨其教覺 從其八咫鳥之後幸行者 吉野河尻時 作釜有取魚人 爾天神御子 問汝者誰也 答曰僕者國神 名謂贊持之子 此者阿陀之鷓養之祖

15『古事記』神武天皇段(2) [戦闘との関わりで天皇直属の軍事力としてのウカイ集団]

擊兄師木・弟師木之時 御軍暫疲。爾歌曰「多、那米豆 伊那佐能夜麻能 許能麻用母 伊由岐麻毛良比 多多加閉婆 和礼波夜恵奴 志麻都登理 宇加比賀登母 伊麻須氣爾許泥」

16『古事記』崇神天皇段 [樟葉とウ河(淀川)の起源譚]

於到山代之和訶羅河時 其建波迹安王興軍待遮 各中挾河而 对立相挑 故 号其地謂伊杼美 今謂伊豆美也 爾 日子国夫玖命乞 云其廂人 先忌矢可彈 爾其建波迹安王 雖射不得中 於是 国夫玖命彈矢者 即射建波迹安王而死 故其軍悉破而逃散 爾追迫其逃軍 到久須婆之度時 皆被迫窘而 屎出懸於禪 故号其地謂屎禪 今者謂久須婆 又 遮其逃軍以斬者 如鷓浮於河 故号其河謂鷓河也

17『日本書紀』卷二神代下第十段本文 [ウの靈力を表す神話とウ草葺不合尊の誕生]

今既辱之 將何以結親昵之情乎 乃以草裏兒棄之海邊閉海途而徑去矣 故因以名兒曰彦波瀲武鷓草葺不合尊

18『日本書紀』卷二神代下第十段一書第一 [17の異伝のひとつ]

所以兒名稱彦波瀲武鸕鷀草葺不合尊者 以彼海濱産屋全用鸕鷀羽爲草葺之 而薨未合時兒即生焉 故因以名焉

19『日本書紀』卷二神代下第十段一書第三 [17の異伝のひとつ]

即以鸕鷀之羽葺爲産屋 (略) 對曰 宜號彦波瀲武鸕鷀草葺不合尊

20『日本書紀』卷二神代下第十一段本文 [神武天皇の父としてのウ草葺不合尊]

彦波瀲武鸕鷀草葺不合尊 以其姨玉依姫爲妃 生彦五瀬命 次稻飯命 次三毛入野命 次神日本磐余彦尊 凡生四男 久之彦波瀲武鸕鷀草葺不合尊崩於西洲之宮 因葬日向吾平山上陵

21『日本書紀』神武天皇即位前紀 [天皇に貢獻する吉野の阿太ウカイ部]

及縁水西行 亦有作梁取魚者 天皇問之 對曰 臣是菴苴擔之子 此則阿太養鸕鷀部始祖也

22『日本書紀』崇神六十年七月条 [出雲大明神の神宝を徴された時のウ濡淳の言動]

其弟飯入根則被皇命 以神寶付弟甘美韓日狹與子鸕濡淳而貢上 (略) 鸕濡淳 參向朝廷曲奏其狀

23『日本書紀』雄略三年四月条 [廬城河のウカイに事寄せた打殺事件]

阿閉臣國見 譖栲幡皇女與湯人廬城部連武彦曰「武彦汗皇女而使任身」武彦之父栲苕喻 聞此流言 恐禍及身 誘率武彦於廬城河 僞使鸕鷀沒水捕魚 因其不意而打殺之

24『日本書紀』敏達天皇五年三月条 [敏達の皇女としてのウ守皇女]

詔立豐御食炊屋姫尊爲皇后 是生二男 五女 (略) 其四曰鸕鷀守皇女 (更名輕守皇女)

25『日本書紀』天智天皇七年二月条 [天智の第二女としてのウ野皇女]

遂納四嬪 有蘇我山田石川麻呂大臣女 曰遠智娘 (或本云美濃津子娘) 生一男 二女 其一曰大田皇女 其二曰鸕野皇女

26『日本書紀』持統天皇即位前紀 [ウ野讚良皇女が天皇に即位]

高天原廣野姫天皇 少名鸕野讚良皇女 天命開別天皇第二女也 母曰遠智娘

27『万葉集』卷一 持統天皇吉野行幸時の柿本人麻呂が詠める歌(38) 持統十一年(697) [吉野のウ使い漁]

やすみしし わが大君 神ながら 神さびせずと 吉野川 激つ河内に 高殿を 高知りまして 登り立ち 国見をせせば 暈はる 青垣山 山神の 奉る御調と 春へは 花かざし持ち 秋立てば 黄葉かざせり 逝き副ふ 川の神も 大御食に 仕へ奉ると 上つ瀬に 鶺鴒川を立ち 下つ瀬に 小網さし渡す 山川も 依りて奉れる 神の御代かも

28『万葉集』卷一三 挽歌(3330) [初瀬川のウ使い漁]

隠口の 泊瀬の川の 上つ瀬に 鶺鴒を八頭潜け 下つ瀬に 鶺鴒を八頭潜け 上つ瀬の 年魚を食わしめ 下つ瀬の 年魚を食わしめ 麗し妹に 鮎を取らむと 麗し妹に 鮎を取らむと 投ぐる箭の 遠離り居て 思ふそら 安からなくに 嘆くそら 安からなくに 衣こそば それ破れぬれば 繼ぎつつも またも合ふと言へ 玉こそば それ破れぬれば 繼ぎつつも またも合ふと言へ 玉こそば 緒の絶えぬれば 括りつつ またも合ふと言へ またも逢わぬは 妻にしありけり

29『万葉集』卷十七 布施の水海に遊覧する賦一首 大伴家持(3991) [宇奈比川のウ使い漁]

物部の 八十伴の緒の 思ふどち 心遣らむと 馬並めて うちくらぶりの 白波の 荒磯に寄する 澁峪の 崎徘徊り 松田江の 長濱過ぎて 宇奈比川 清き瀬ごとに 鶺鴒川(宇加波)立ち か行き かく行き 見つれども そこも飽かにと 布施の海に 船浮け据えて 沖へ漕ぎ 邊に漕ぎみれば 渚には あち群騒ぎ 鳥廻には 木末花咲き 許多も 見の清やけきか 玉匣 二上山に 延ぶ鳶の

行きは別れず あり通ひ いや毎年に 思うどち かくし遊ばむ 今も見るごと

30『万葉集』卷十七 放逸せる鷹を思ひて 夢に見て感ひて作る歌一首 大伴家持(4011) [越でのウカイ]
大君の 遠の朝廷そ み雪降る 越と名に負へる 天離る 鄙にしあれば 山高み 川雄大し 野を
廣み 草こそ繁き 鮎走る 夏の盛りと 鳥つ鳥 鶺鴒が伴は 行く川の 清き瀬ごとに 篝さし
なづさい上る(略)

31『万葉集』卷十七 婦負郡の宇佐加河の邊にして作る歌一首 大伴家持(4022) [ウ佐加河]
鶺鴒坂川(宇佐加河) 渡る瀬多み この吾が馬の 足搔きの水に 衣濡れにけり

32『万葉集』卷十七 鶺鴒(鶺鴒)を潜くる人を見て作る歌一首 大伴家持(4023) [婦負川のウ使い漁]
婦負川の 早き瀬ごとに 篝さし 八十伴の男は 鶺鴒川(宇加波)立ちけり

33『万葉集』卷十九 鶺鴒を潜くる詞一首短歌を并せたり 大伴家持(4156) [辟田川のウとウカイ]
あらたまの 年ゆき更り 春されば 花のみにほふ あしひきの 山下響み 落ちたぎち 流る辟田
の 川の瀬に 年魚見さ走る 鳴つ鳥 鶺鴒(鶺鴒)ともなへ 篝さし なづさひ行けば 吾妹子が
かたみがてらと 紅の 八しほに染めて おこせたる 衣の裾も とほりて濡れぬ
毎年に 鮎し走らば 辟田川 鶺鴒八頭潜づけて 川瀬尋ねむ(4158)

34『万葉集』卷十九 水鳥を越前判官大伴宿禰池主に贈る歌一首短歌を并せたり 大伴家持(4189)
天離る 鄙としあれば そこここも 同じ心ぞ 家離り 年の経ゆけば うつせみは 物思ひ繁し そ
こゆゑに 心なぐさに 霍公鳥 鳴く初声を 橘の 玉にあへ貫き かつらきて 遊ばむはしも 大
大夫を 伴なへ立てて 叔羅川 なづさひ上り 平瀬には 小網さし渡し 早き瀬に 鶺鴒(水鳥)を潜けつ
月に日に しかし遊ばね 愛しき我が背子
叔羅川 瀬を尋ねつつ 我が背子は 鶺鴒川(宇加波)立たさね 心なぐさに(4190)
鶺鴒川(鶺鴒河)立ち 取らさむ 鮎のしがはたは 我れにかき向け 思ひし思はば(4191)

35『美濃国各務郡中里戸籍』大宝二年(702) 正倉院文書 [ウカイ部の戸籍]

下 下戸酒人部意比戸口八_{長士二} 小子_三 正女_三

下々戸主意比_{年卅七} 嫡子安麻呂_{年廿一} 次古麻呂_{年十五}

次兄麻呂_{年十} 次弟麻呂_{年十} 戸主妻鶺鴒養部目都良賣_{年卅七}

寄人若帶部羊賣_{年廿二} 寄人生部南賣_{年廿二}

36『律論疏集傳等本収納并返送帳』天平十五年(746)五月 正倉院文書 [使となったウカイ子君]
(後筆)以天平十八年六月廿七日返送岡寺上座所 使仕丁鶺鴒甘子君

37『続日本紀』養老五年七月庚午(721.7.25) [元正天皇の徳により、大膳職のウ等を放つ]
詔曰 凡鷹靈罔 君臨宇内 仁及動植 恩蒙羽毛 故周孔之風 尤先仁愛 李釈之教 深禁殺生 宜
其放鷹司鷹・狗 大膳職鶺鴒 諸国鶏猪 悉放本処 令遂其性 従今而後 如有応須 先奏其状待
勅 其放鷹司官人 并職長上等且停之

38『続日本紀』天平十七年九月癸酉(745.9.19) [聖武天皇病氣平癒祈願のため官ウを放つ]
天皇不予 (略)令諸国所有鷹鶺並以放去

39『続日本紀』天平宝字八年十月甲戌(764.10.11) [諸國からのウ等の貢進停止記事]
勅曰 天下諸國 不得養鷹狗及鶺以畋獵 又諸國進御贅雜完魚等類悉停 又中男作物 魚完蒜等類悉
停 以他物替充

- 40『経所併吉祥悔過所上日解案』天平宝字八年正月廿九日(764.1.29)正倉院文書〔大伴ウカイらへの糧米〕
 (略)経所解……大伴鷯甘……天平宝字八年八月廿六日……、経所解……大伴鷯養……天平宝字八年九月廿五日……、経所解……大伴鷯甘……天平宝字八年七月廿五日…… (略)
- 41『越前國司公驗』天平宝字八年二月九日(764.2.9)正倉院文書〔間人宿祢ウカイら所有の田地売買記録〕
 (略)是左京六条二坊戸主從七位上間人宿祢鷯甘戸口正八位下間人宿祢鷯養田地併家地今以件買(略)
- 42『日本後紀』延暦二十四年十月庚申(805.10.25)〔官ウを盗み配流〕
 佐渡國人道公全成 配伊豆國以盜官鷯也
- 43『新撰姓氏録』未定雑姓 和泉国 弘仁六年(815)〔和泉国のウカイ部〕
 鷯甘部首 武内宿禰男 己西男柄(柄)宿禰之後也
- 44『日本靈異記』中卷 第三十九 弘仁年間〔仏教説話の舞台としての遠江国榛原郡ウ田里〕
 天平寶字二年戊戌春三月 彼鷯田里 河邊沙之中 有音而曰 取我矣取我矣 于時有僧 經国而行過 彼 當時取我之曰音 猶不止 僧呼求之 遯近得聞沙底有音 思埋死人之蘇還也 堀見有藥師佛木 (略)
- 45『令集解』卷五職員令 宮内省大膳職(868年頃)〔雑供戸に編入されたウカイ集團の戸数〕
 雑供戸(略)別記云 鷯飼三十七戸 江人八十七戸 網引百五十戸 右三色人等 經年役丁每為品部 免調雑徭
- 46『日本三代実録』貞觀十二年二月甲午(870.2.12)〔対馬の住人が新羅へウ捕りに行き捕縛〕
 大宰府言 對馬嶋下縣郡人卜部乙屎麻呂 為捕鷯鷯鳥 向新羅境 乙屎磨為新羅國所執 縛囚禁土獄
- 47『日本三代実録』仁和三年五月己亥(887.5.26)〔大宰府の官ウの送致を海路から陸路に戻す〕
 大宰府年貢鷯鷯鳥 元從陸道進之 中間取海道 以省路次之煩 寄事風浪 屢致違期 今依旧自陸道入貢焉
- 48『西宮記』卷十裏書 延喜十三年(913)〔供御所での贅人としての「ウカイ」による貢進〕
 山城國宇治御網代 毎日進鮎魚 葛野河供御所 毎日進鮎魚、自六月至八月、 埴河供御所 毎日進鮎(魚)同葛野河、 鷯飼進鯉鮎 夏鮎、冬鮎、
 進鷯事等 鷯飼進雉 自六月至八月、近江國御鷹、始自八月一日至五月五日、毎日進一翼、他御鷯飼新嘗會并臨時進之、
- 49『延喜式』卷八 神祇八 祝詞 六月月次 延長五年(927)〔祝詞にウを詠み込む〕
 集侍神主祝部等諸聞食登宣 (略) 磐尔常磐尔齋比奉 茂御世尔幸閉奉故 皇吾陸神漏伎命 神漏彌命 登 鷯自物頸根衝拔弓 皇御孫命乃宇豆(略)
- 50『延喜式』卷十 神祇十 神名下 延長五年(927)〔ウの字句を含む式内社〕
 越前国今立郡 鷯甘神社、坂井郡 鷯屎神社 越中国婦負郡 鷯坂神社 越後国三嶋郡 鷯川神社 備中国小田郡 鷯江神社
- 51『延喜式』卷二十二 民部上 延長五年(927)〔ウの字句を含む郡名〕
 南海道 讚岐国 鷯足郡
- 52『土佐日記』承平五年(935)二月九日〔紀貫之一行が淀川右岸のウ土野(鷯殿)に宿泊〕
 こよひ宇土野といふ所にとまる
- 53『倭名類聚抄』承平年間(931~937)〔ウカイの郷名〕
 美濃国 方縣郡 村部 大唐 鷯養 思淡 馬家
- 54『蜻蛉日記』天禄二年(971)〔初瀬詣での帰路、宇治院での夜ウカイの情景を記し、詠う〕

木暗くなりぬれば、鶺鴒船ども篝火さしともしつつ、ひとかわさしいたりき、おかしくみゆることかぎりなし。頭のいたさのまぎれぬれば、端の簾まきあげて、夜中過ぐるまでながむる。

「うえしたと こがるることを たづぬれば 胸のほかには 鶺鴒船なりけり」

55『源氏物語』第十八帖「松風」[桂殿での昼ウカイ]

にはかなる御饗応と騒ぎて、鶺鴒船ども召したるに、海人のさへづり思し出でらる。

56『源氏物語』第三十三帖「藤裏葉」[六条院での昼ウカイ]

東の池に舟ども浮けて、御厨子所の鶺鴒船の長、院の鶺鴒船を召し並べて、鶺鴒をおろさせたまへり。小さき鮎ども食ひたり。わざとの御覧とはなけれども、過ぎさせたまふ道の興ばかりになむ。

57『侍中群要』第十 10~11世紀 [ウの上覧等と埴川(高野川)と葛野川(大堰川)のウカイ]

臨時雑事

○御覧鶺鴒事 奏覧解文下給之時被仰可有御覧之由即垂御簾御厨子所鶺鴒等著舍人装束持參瀧口戸於御前出之入之若鶺鴒等不候所衆出納等役之而後召鶺鴒分等分給兵衛陣前立胡床藏人出納御厨子預等著之或只於陣屋座行之上古於進物所樹下給之云々

○進鶺鴒時事 諸國進鶺鴒時奉解文後藏人於右兵衛陣外召鶺鴒分給藏人出納居胡床子_{字无}有御覧時所衆取鶺鴒籠參御前云々御鶺鴒所衆同持參云々

○御覧諸國貢鶺鴒事 奏解文下給之比被仰可御覧之由先下廂御簾召鶺鴒_{持來時仰便門陣々可入之由令候北廊戸外説云々出羽必覧余未必覧殿戸外或説云々出羽必覧余未必覧} 随召々御前御厨子所鶺鴒着舍人装束持參出之入之了上御簾若無鶺鴒者藏人所_{字无}并出納等持之令覧

○御覧之後給鶺鴒事_{已有先例} 出納一人藏人一人預等召鶺鴒長等於右兵衛陣前給之上古_{例於進物所栗木下給之今其木顛倒云々}

○御覧鶺鴒事 奏解文下給之時被仰可御覧之由仍先下廂御簾召鶺鴒之御厨子所鶺鴒等着舍人装束持參御前出之入之御覧了罷出即上御簾云々若鶺鴒等忽不候、出納持參經御覧又不必御覧只令分給御覧了後給鶺鴒等即藏人出納御厨子所預等相率於右兵衛陣前召鶺鴒長令頒給藏人以下立胡床着之

或居陣座給之上古於進物所西樹_{上條作葉末}下給付云々年紀久樹枯仆了

○東西宣旨_{一本鶺鴒字有} 鶺鴒事_{埴川葛野川一條院御宇之後此事不見} 藏人二人_{東西相分} 相率御厨子所預等召供御鶺鴒等至河邊行事_{前日出納等河邊用意諸司平張等令識仰之} 所飼獲之魚早馳使者備供御云々依其遲速東西勅使各稱唯者也

凡此事或及二三夜每日獻魚後歸參或東河一夜還

58『権記』長保二年(1000)九月二日 [率分の12体のうち5体のみのウの貢進記録]

出羽国年料鶺鴒貢進 藏人所載本解文十二率之中 五率見進 其殘算途中死

59『宇治關白高野山御參詣記』永承三年(1048) [頼通の高野山參詣に隨行するウカイ舟団]

桂鶺鴒廿艘、宇治鶺鴒十四艘依召候

2. ウとウカイの用字の解説

前項で集成した文献について、中国と日本におけるウとウカイを用字ごとに一覧した(表1・2)。

(1) ウの用字

中国でのウを記録した最古の文献は紀元前に編纂された字典の『爾雅』1で、ウは鶺鴒や鶺鴒と表記され、『設文解字』2は鶺鴒を鶺鴒とした。『爾雅』を注した郭璞も鶺鴒を鶺鴒と記すなかで、その形態的特徴や食性についても定義している。鶺鴒も、どちらも黒い鳥をさす言葉で、鶺鴒は同じ意味合いの字を重ねる連文の形式をとっており、中国では珍しくない表字法のひとつである。この鶺鴒の字句は、『隋書』5

などの公文をはじめ、杜甫をはじめとする、著名な詩人も詩歌8に詠み込むなど、ウの名称として一般的に使用され、その後も『清異録』9、『太平御覧』10など、ごくふつうに用いられる。宋代以後も鷓鴣はウの通名として頻用されるが、地域によっては水鴉、水老鴉等、さまざまな呼び名がみられる⁽⁴⁾。

日本列島でのウを記した文献については、8世紀以後に編纂された『古事記』、『六国史』、『万葉集』をはじめ、『戸籍』、『延喜式』、『侍中群要』など22書の都合49資料が検索でき、鷓鴣、鷓、水鳥、鶉、宇の五つの用字を確認した。これらはいずれも8世紀の文献に記載されており、とりわけその前半期に編集された『記紀』の用例をみると、『書紀』は鷓鴣9例、鷓は4例で、『古事記』は鶉6例となり、二書での偏在ぶりが際立つ。この明確な用字の差異は、舶載された典籍等を参照しながら漢語をベースに編集された歴史書の『書紀』と、和語での表現を基本とする『古事記』との違いとみられ、まさに両書の編集

世紀	前2	前1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
中国	鷓		説文解字 2									
	鷓 鷓	爾雅 1			爾雅注 3							
	鷓 鷓		説文解字 2		爾雅注 3				隋書 5			清異録 9 太平御覧 10
	鷓	爾雅 1	説文解字 2				後漢書 4		一切経音義 6 後漢書・注 7 三絶句 8			

表1 中国古代のウの用字例一覧（文献横の数字は集成番号）

世紀	8		9		10		
日本	ウ	鷓 鷓	日本書紀 17~20・23・24 続日本紀 37		日本三代実録 46・47		
		鷓	日本書紀 22・25・26 万葉集 31~34		侍中群要 57		
		鶉	古事記 11~13、16 万葉集 27・28 続日本紀 38・39		日本後紀 42 日本霊異記 44		西宮記 48 延喜式 49~51 蜻蛉日記 54 源氏物語 56 侍中群要 57 権記 58
		水鳥	万葉集 34				
		宇	万葉集 29・31・32・34				土佐日記 52
ウ	カ イ	養鷓	日本書紀 21				
		鷓養	万葉集 33				
		鶉養	美濃国戸籍 35 古事記 14 万葉集 30 経所-解案 40				西宮記 48 倭名類聚抄 53
		宇加比	古事記 15				
		鶉甘	律論疏集傳-36 経所-解案 40 越前国司公験 41		新撰姓氏録 43		延喜式 50
		鶉飼			令集解 45		源氏物語 55・56 侍中群要 57
		鷓飼					侍中群要 57

表2 日本古代のウとウカイの用字例一覧（文献横の数字は集成番号。詩歌は原文の用字で数えている）

方針がウ字の用法にも反映したものと考えられる。こうした観点の延長線上で、延暦十六(797)年に完成した『続日本紀』をみると、養老五(721)年の記事**37**は鷗鷁、天平十七(745)年と天平宝字八(764)年の記事**38・39**は鵜となっていて、『書紀』と『続日本紀』を一連の歴史書としてとらえると、ウの表示は鷗鷁・鷗から鵜へ変転していったことが窺える。なお「水鳥」、「宇」のふたつの字句はもっぱら歌謡**32・34**に用いられた当て字で、「水鳥」は表意文字であるものの訓みはウ、「宇」はまったくの表音文字である。

9・10世紀のウについては、「鷗鷁」が1文献2例、「鷗」が1文献4例なのに対し、「鵜」が8文献の18例で、「鵜」が急激かつ圧倒的に多くなる。この時期の「鷗鷁」の使用例は『日本三代実録』の貞観十二(870)年と仁和三(887)年の記事**46・47**だが、どちらも西海道の内政管轄府である大宰府からの進達文が原史料とみられ、その用字については、地理的要因とともに対外交渉にあっていた太宰府の特殊性によるのかもしれない。また鷗は蔵人に関するさまざまな事例を集めた有職故実書の『侍中群要』**57**にあり、同書の性格から新古の類似文書が並記され、ウについても鷗と鵜が文書ごとに用字の違いが歴然である。具体には鷗字は「進鷗鷹時事」項にのみ集中して認められ、それは一に当該項目が一括された諸文書のなかでも、より古相の文書が記録された結果と思われる。いずれにしても、この時期における鷗鷁と鷗の使用はそれぞれの文献の特段の個別要因があつてのこととみられる。按ずるに、平安時代以後、ウ字は次第に鵜にシフトし、定着していったとみて過たないのだろう⁵⁾。ちなみに、前代の歌謡にみられた宇については、宇土野**52**が知られる。この宇土野は後世「鵜殿」と史料にあるが、いまのところ、がんらいの「鵜殿」が宇土野と表記されるようになったことを示す史料は確認されていない。

(2) ウカイの用字

ウカイの用字では、あらためて驚き、再確認したのは、古代中国ではウを使った漁業、すなわちウカイ漁を直接示す名詞としての「養鷗鷁」や「養鷗鷁漁」などの文言がみられない⁶⁾ことである。さきの『隋書』倭国伝は世界最古のウカイ漁の記事**5**と評されているが、それは列島での一連の習俗の記述のなかにある。具体には、頸に紐を結わえたウが魚をとる情景を記録したもので、ウカイそのものを直接的に表現する名辞が記されている訳ではない。これに類する話は、中国本土での最古のウカイ漁の記録とされる10世紀の『清異録』**9**も同様で、そこでは家畜化した鷗鷁を漁に使っていることを散文的に述べるにとどまる。

日本列島におけるウカイの用字については、養鷗1例、鷗養1例、鵜養6例、宇加比1例、鵜甘6例、鵜飼17例、鷗飼1例の7種の用字を14文献で都合33例を抽出できた。ウの場合と同様に、8世紀と9・10世紀の事例とに大別して検討する。まず最古の用例としては大宝二(702)年の美濃国戸籍**35**の鵜養部があげられ、すでに鵜字が採用されている点は注意されてよい。ついで『記紀』の用字をみると、『書紀』は養鷗の1例、『古事記』は鵜養の1例であり、ウ字にみられた鷗と鵜の取り扱いと同然の用例となっている。ただ興味深いのは養鷗の語句**21**が、表示法としてはまったくの漢語的表現でありながら、名詞化させていることである。さきにウ字について、中国から直輸入された「鷗鷁」や「鷗」字から「鵜」字へ変遷したと読み解いたが、ウカイについても、漢語的な養鷗から、さきの『戸籍』にみられた鷗養部や『万葉集』にある和語としての表現である鷗養、さらに鵜養への変転が推察できる。このうち鷗養と鵜養については、ウカイをさす字句として日本で創案されたことは疑いのないところであり、ウカイの当初の用例とみられる養鷗についても、やはり日本で認められたと考えるのが妥当である。つぎに鵜甘**36・40・41**については、多分に鵜養から派生したとみられ、宇加比**15**については、歌謡に表音文字として「宇」を用いた経緯と同然のことと考えられる。ところで小稿ではことさら採りあげなかったが、歌

謡にしばしばみられるウカワ(鵜川、宇加波、鷗川)はウカイと同義とされ、『万葉集』においても5例確認されている⁷⁾。越後国の鵜川神社の社名50も、こうした背景があつて名付けられたものか。

9・10世紀のウカイ字については、鵜養2文献2例、鵜甘2文献2例、鵜飼3文献17例、鷗飼1文献1例で、鵜字をもちいた用語が圧倒的多数を占めるようになる。鵜養は奈良時代の用字を単に引き継いだものであるが、現在もっとも慣れ親しんでいる「鵜飼」の字句は、じつは平安時代になってようやく登場する。管見においては、『令集解』45に見出された「鵜飼」が最古の確認例であり、これ以後、飼字は急速に普及していく。さきにみた『侍中群要』57でのウカイの用例は、同書におけるウの書き分けと同様に、鷗飼と鵜飼が文書ごとに偏在している。なお、鷗飼の字句はこの1例のみで、文言に鷗を含むことから、一見、古相の用法にみえるが、ウカイの字句に飼を用いる事例が奈良時代にみられないことと、旧来の文書を集成した『侍中群要』の性格を勘案すると、新古の表現法が綯い交ぜになったものと判断され、実態的には平安時代につくられた希少な造語と考えられる。鵜甘は奈良時代以来の名辞であるが、鵜甘(ウカン)神社は当て字のウカイが時間の経過とともに漢字本来の読みとして通用した結果と解せる。

3. ウとウカイの用字の変遷

表3は以上に述べたウとウカイの用字の変遷について、系統図として示したものである。結論的には、下記にあるように日本列島のなかで、鵜と鵜飼の字句に収斂していく経過が読みとれるものとなった。

まず左欄にまとめたウの字句に関しては、6世紀から7世紀にかけて中国から舶載ないし伝聞された各種文献に記載されていたであろう鷗や鷗鷗が、『記紀』や『万葉集』が編集、編纂される過程において、また律令体制が列島に浸透するなかで、さまざまに受け入れられていったことがうかがわれる。鷗や鷗鷗をそのままに採用したのが『日本書紀』の編集姿勢であり、『古事記』『万葉集』については、変質化が著しい。その経過については、表意文字として鷗や鷗鷗、とくに連文としての鷗鷗は、およそ一字一音を原則とする万葉仮名の表記を底流とするなかで、まずは鷗鷗の鷗が除かれて、鷗の一字でウとされた状況がうかがえる。なぜ鷗が削除されたかについては、『爾雅』や『説文解字』にも記されているように、彼の地での用法に倣ったとも考えられるし、なによりも二字で一音表記することを避けようとしたものと思われる。ところで、当時の列島にあつてウの表意文字として、なぜ「鵜」字が採用されたのか、その経緯については詳らかでない。

そもそも鵜は、『爾雅』によるとペリカンをさす言葉で、鵜鷗であると解説されている。察するに、この鵜鷗は wū-zhé と発音されていたことから、列島で古来、ウと呼び慣らわされてきた水鳥について、鵜の字をあてたわずかな可能性をとらえたい。要因としては、lú と発音する鷗字が最終的に馴染まないと判断されたのであろう。ようするに列島におけるウを表わす鵜は、表意的には鷗鷗や鷗から派生したとみられる一方で、表音としては漢語の鵜を借字することにより、ウの表意文字として和語の「鵜」に仕立てていったものと推察する。文献を探索する限りにおいては、およそ古代の日本、とりわけ『古事記』や『万葉集』の編集に携わった人々や戸籍の作成にあたる役人らが、律令政府の方針に従い、鵜字を意識的、公的に採用していったものと考えられる。そして、そのことが混乱もなく、また抵抗も感じずに普遍化していったのは、そもそも日本列島にペリカンが生息していなかった⁸⁾ことも与つたに違いない。

つぎに右欄にあるウカイの用字については、ウに鷗ないし鵜を選択的に使用するなかで、カイにはもっぱら養を用い、「養鷗」、「鷗養」、「鵜養」としていた。この三者の相関については、漢語的な「養鷗」

から和語的な「鷓養」が胚胎、それとほぼ併行するかたちで「鷓」字の採用があり、「鷓養」の語句が成立したと考えるのが型式学的な変遷として相応しい。その後、カイについては、「飼」字が専用され、「鷓飼」の文言が確立する。この養から飼への変転については、平安時代に入ってから先記したが、その理由については、なお明らかでない。

4. ウカイとタカカイ・トリカイ、そしてウマカイ

ウカイの「養」と「飼」にかかわる用語の変転状況については、タカカイやトリカイの用語にも見受けられるので、ここでは要点をふまえ簡述しておく。タカカイでは『筑後国正税帳』（正倉院文書）の天平十（738）年の大宰府に関する記録にある鷹養卅人や『越前國司公驗』（正倉院文書）41の天平宝字八（764）年の間人宿禰鷹養が早い事例で、『六国史』でも天平二十（748）年の阿倍朝臣鷹養から弘仁八（817）年の坂上大宿禰鷹養まで、鷹養を名乗る人物が都合6名分の記載がある。一方、「鷹飼」については、ようやく9世紀末の元慶七（883）年七月五日条の「主鷹司鷹飼卅人」の記載、さらには『侍中群要』の「御覽御鷹事」などにみられる。トリカイについても、『雄略紀』十年条の鳥養部、『舒明紀』四（632）年条の勝鳥養をはじめ、『続日本紀』天平元（729）年条の藤原朝臣鳥養や、その後の10世紀段階の『延喜式』においても攝津国鳥養牧などとあるが、もっとも早い「鳥飼」の用語は『三代実録』にある貞観八（866）年の鳥飼神の叙位記録である。

ちなみにウマカイについては、「養」字が天平十（738）年の文馬養、「甘」字が天平宝字八（764）年の経所等解案40の領上馬甘として検証されるものの、そのこと以上に『雄略紀』二十三年条の大津馬飼、『継体紀』元年条の河内馬飼首荒籠など、8世紀段階の編纂物から「飼」字を使用している点が、ウカイ、タカカイ、トリカイの「飼」字の扱いと大きく異なる。いまトリカイは暫くおくとして、律令期の早い段階にあっては、ウカイ・タカカイとウマカイにかかわるカイの字句の取り扱いには明確な差異があったということである。それは鳥と馬という躯体の大きさや動物の種類による飼育法の違い、あるいは儀礼・儀式での関わり方の違いが反映した結果なのかも知れない。いずれにしても、9世紀以降、とくに『侍中群要』以後の史料に端的に示されるように、ウカイとタカカイは先行して「飼」字を用いていたウマカイにならって、「養」字を「飼」字に速やかに変更していったことがうかがえる。

おわりに

以上にみたウとウカイの用字や文献の検討の結果、まず意外だったのは古代の中国にはウカイそのものの名辞はもとより、時々の政権中枢にかかわるウカイ儀礼そのものがうかがえなかったことである。また列島におけるウカイについては、律令時代を通して各地から贄の貢進などにもなうウの調達の状況、さらには律令政府主導によるウカイやウカイ儀礼が垣間見え、一定の整理ができたのは幸いだった。とくに注目するのは、世界的にも特異で希有な存在と考えられる王権祭祀に組み込まれたウカイ儀礼で、その成立過程の追究には、古墳時代のウカイの実態解明が不可欠なことになろう。ただし、具体的なアプローチについては小稿で示した文献資料ではとてもおぼつかず、形象埴輪などの考古資料の検討において、ほかにないことをあらためて認識した。まさに小稿はその予察として提示したものであり、後考に期したいと思う。

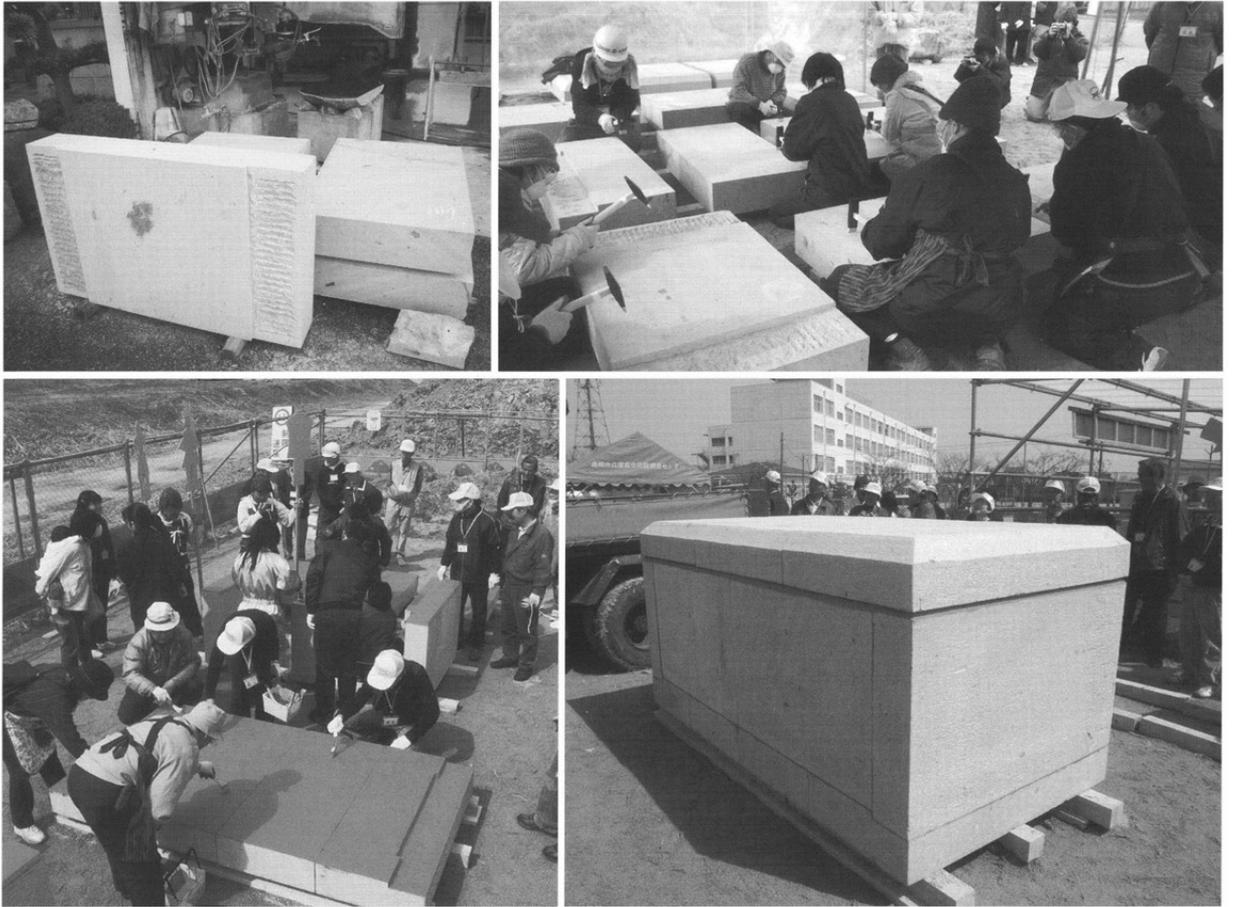
小稿の執筆ならびに史料の探索にあたっては、以下の方々の教示と協力を得た。記して感謝申しあげる。

井坂武男、鐘ヶ江一朗、清水亜弥、土山公人、西本幸嗣、町田章。

註

- (1)拙稿「第二章 6 古代における淀川の鵜飼」『継体天皇 二つの陵墓、四つの王宮』新泉社 2008
- (2)ここでは列島、中国大陸とも、10世紀末を一応の区切りとし、資料が爆発的に増大する11世紀以降は割愛した。ただし、淀川流域にかかわる部分については、11世紀代までの史料を適宜に取り入れた。なお管見では、古代朝鮮半島でのウカイ漁の記録は認められなかった。
- (3)以下の文献及び史料を参考にした。可兒弘明『鵜飼』1966、網野善彦「鵜飼の歴史」『岐阜市史』1977、ベルトルト・ラウファー（小林清市・訳）『鵜飼 中国と日本』1996、鈴木真弓1993『西宮記 第二』改訂増補故実叢書7巻、目崎徳衛『侍中群要』1985、国書刊行会「第5宇治關白高野山御參詣記」『第7侍中群要』『続々群書類従』1978、『増補史料大成』第四巻（権記1）同刊行会1965、『全唐詩』中華書局1960、『説文解字注』上海古籍出版社1981、『十三経注疏』芸文印書館1965、『徐時儀校注、一切経音義、三種校本合刊』上海古籍出版社2008、『後漢書 卷六十上馬融列伝』中華書局1973、『隋書 卷八十一列伝第四十六東夷』中華書局1973のほか、『正倉院文書』、『新訂増補国史大系』、『日本古典文学大系』等を参照した。
- (4)ラウファー前掲文献による。
- (5)江戸時代には丹後の『丹哥府志』、岐阜の『本草正譌』『濃陽志畧』などの地誌の類で鷓鴣が採りあげられている。
- (6)杜甫の詩にある「家家養烏鬼 頓頓食黄魚」の烏鬼を鷓鴣とみる意見もあるが、黄魚はチョウザメであり、魚体の大きさからウが食す対象にはならない。ここは烏鬼をウに限定すべきでないとする可兒の見解に従う。
- (7)『古事記』にある鵜河の地名譚は、当然、このウカイを意味するウカワとは異質のものである。
- (8)ペリカンの和語は古来、伽藍鳥と呼ばれ、永享二（1430）年に京都伏見の舟津で捕えられたのが最古の記録とされている。

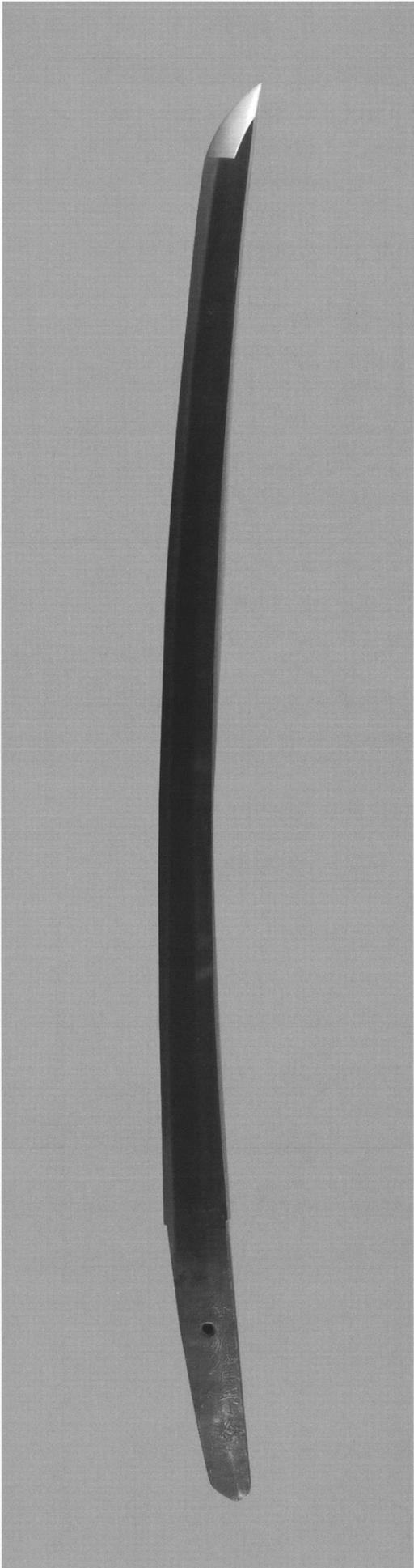
版 图



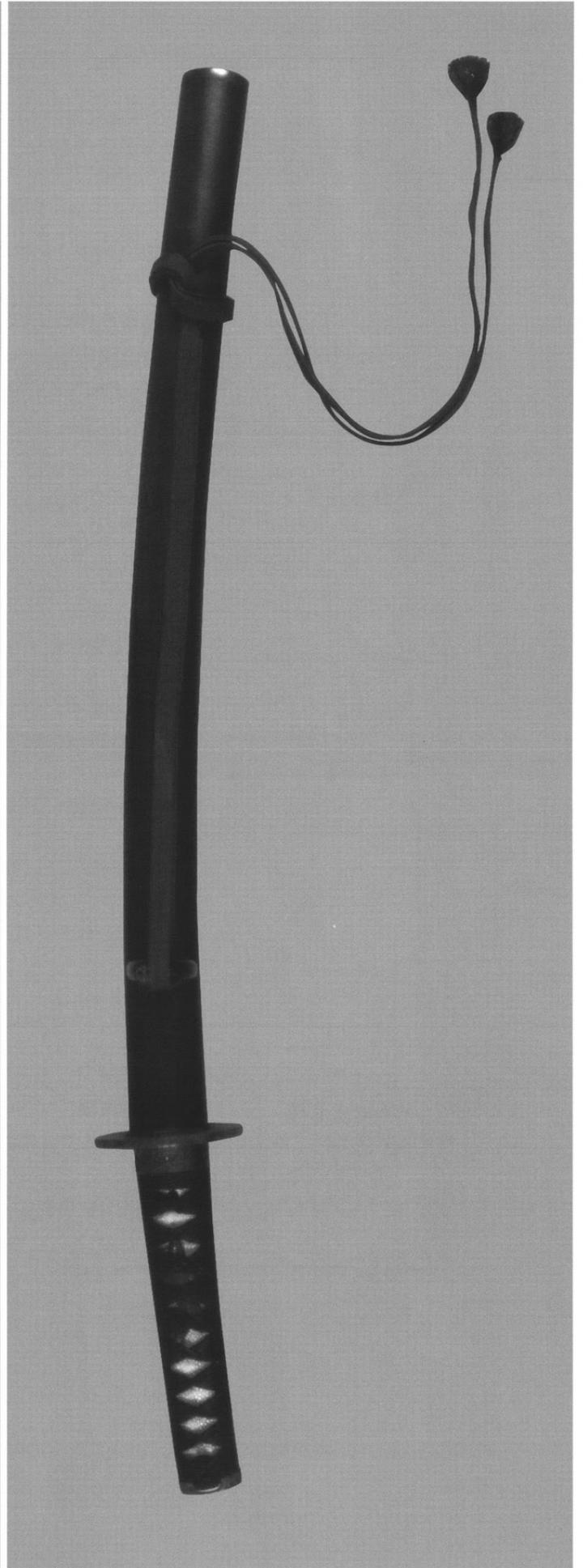
a. 石棺復元体験イベント「古代の匠に挑戦」(平成19年度) 二上山白石製石棺の復元
左上: 板材の荒加工 右上: コタタキによる仕上げ 左下: 赤朱の塗布 右下: 完成状況



b. 同 上 (平成20年度) 阿蘇ピンク石製石棺の復元
左上: 石材の切り出し(熊本県宇土市) 右上: 棺蓋の仕上げ 左下: 棺身仕上げ
右下: 完成状況



備州住宗久 刀身



同 拵

編集後記

平成19年度・20年度の文化財関連事業をまとめました。

この2年間、特別展や講座・体験イベントなど、さまざまな普及啓発活動を実施し、市民の方々の多数のご参加をいただいています。一方、発掘調査や掘り起こし調査、収蔵品の保存実務などもおこなってきましたが、地味な取り組みであり、なかなか市民の方々の目に触れる機会はありません。本書の「I 文化財の調査及び研究」、「II 文化財の保護及び保存」は、それら文化財関連事業全体を下支えする活動を知っていただけるよい機会ですので、今後も記述の充実をはかっていきたいと思えます。

また今回は研究ノートとして、森田克行による「古代ウとウカイの用字」を掲載しました。今城塚古墳出土の家形埴輪にあった魚をついばむ鳥のヘラ絵などから、王権祭祀にウカイが組み込まれていたと考究し、文献史料から古代日本のウカイ儀礼へアプローチしようとした論考です。今後、今城塚古墳の整備や普及啓発においても基礎資料となるものです。学芸員の研究・研鑽の成果を発表する場として、今後も文化財年報を活用していきたいと思えます。

本書の編集は千田康治・高橋公一が担当しました。

高槻市文化財年報 平成19・20年度

平成22年3月26日

発行 高槻市教育委員会文化財課
〒560-0067 高槻市桃園町2-1

印刷 株式会社 邦文社
〒533-0011 大阪市東淀川区大桐一丁目5番2号



古紙配合率100%再生紙を使用しています